

北海道大学 大学院文学院

2024

Graduate School of
Humanities and Human Sciences
Hokkaido University

2024年度 北海道大学 大学院文学院



北海道大学
大学院文学院

Graduate School of
Humanities and Human Sciences
Hokkaido University

文学院院长挨拶

北海道大学大学院文学院は、前身の文学研究科の蓄積を着実に継承しつつ、加えて新たな学問領域も担うことを目指した、北の大地における人文科学の研究教育拠点です。従来の4専攻を統合再編し、人文学専攻と人間科学専攻の2専攻体制に変えることで、新たな研究領域を創設するとともに、分野間の垣根を越えた研究教育がしやすくなるように生まれ変わりました。

北大文学院の大きな特徴は、思想・歴史・文学などの人文学に属する分野と、心理学・社会学などの人間科学と呼ばれる領域に含まれる分野が、お互いに結びつきながら研究教育が行われているという点です。専門とする分野の高度な教育を享受しつつ、他の専攻に属する分野の授業を受けることにより、自身の研究をより俯瞰的、客観的にとらえることができます。二つの領域が一つ場で共生することによって、新たな可能性の揺籃たることを目指しているのです。

これからの大学院教育で求められるのは、専門分野に関する深い見識を備えると同時に、専門分野以外にも広がりをもつ創造的な視点を育てていくことです。こういった要請に応えるべく、修士課程では大学院としては異色の必修講義科目を設置し、分野横断的な観点から現代社会における諸問題を考察する姿勢を養えるようなカリキュラムを用意しています。また、文学院は北大の他の組織と連携して、今までにはなかった斬新な教育プログラムや取り組みに積極的に関わっています。文系・理系という古い垣根にこだわらない先進的な教育を展開することによって、多角的な視野をもって専門的研究に取り組む研究者を養成します。

さらに、複雑さを極めるこれからの社会において、大学院で行われる高いレベルの教育を受けた人材が様々な分野で必要となってくことに疑いはありません。アカデミックな分野の研究者だけではなく、民間企業や官公庁、教育分野などで活躍する人材を育成することが、大学院の社会的役割として急務となっていると言えます。このような時代的要請に応えるため、「教養深化プログラム」というまったく新しい学びの場を提供しています。諸課題を解決していく上で不可欠な思考力や、自分のアイデアを他の人にわかりやすく提示し、社会に実現していくスキルや能力を身につける貴重な機会となるはずです。

文学院では、大学院生みなさんが確実に論文や研究課題を完成させることができるように、きめの細かいカリキュラムが整えられています。美しい環境に囲まれた北大文学院で、汲み尽くすことのできない学問という奥深い世界に浸りながら、自らの人間性と教養を磨き、人間が生み出した豊かな文化を継承していく一員となってみませんか。



北海道大学大学院文学院院长

藤田 健 ふじた たけし

「文学院」への誘い

CONTENTS

文学院概要

文学院の特徴・履修モデル	03-04
特色ある教育プログラム	05-06
支援制度	07-08

専攻・講座・研究室紹介

人文学専攻	09-12
哲学宗教学講座 哲学倫理学研究室	13
哲学宗教学講座 宗教学インド哲学研究室	14
歴史学講座 日本史学研究室	15
歴史学講座 東洋史学研究室	16
歴史学講座 西洋史学研究室	17
歴史学講座 考古学研究室	18
文化多様性論講座 文化人類学研究室	19
文化多様性論講座 芸術学研究室	20
文化多様性論講座 博物館学研究室	21
表現文化論講座 欧米文学研究室	22
表現文化論講座 日本古典文化論研究室	23
表現文化論講座 中国文化論研究室	24
表現文化論講座 映像・現代文化論研究室	25
言語科学講座 言語科学研究室	26
スラブ・ユーラシア学講座 スラブ・ユーラシア学研究室	27
アイヌ・先住民学講座 アイヌ・先住民学研究室	28
在校生が語る「エルムの森の日々」case 1	29-30
人間科学専攻	31-32
心理学講座 心理学研究室	33
行動科学講座 行動科学研究室	34
社会学講座 社会学研究室	35
地域科学講座 地域科学研究室	36
在校生が語る「エルムの森の日々」case 2	37-38

TOPICS

研究環境	39
関連組織	40

インフォメーション

学生生活	41
入試から入学まで	42
進路・就職	43-44

キャンパスマップ	45
----------	----



文学院の 特徴・履修モデル

文学院は、改組前の組織である文学研究科の思想文化学・歴史地域文化学・言語文学専攻を統合することで人文学の総合的な学びが可能となった「人文学専攻」と、人間システム科学専攻の先端的で豊かな研究環境を継承・発展させた「人間科学専攻」との2専攻からなります。

学際的な人文・社会科学諸分野の学修を通して、俯瞰的な視野から人間と社会をめぐる知を身につけることができます。

- 多彩な11講座20研究室からなる2専攻。100名を超える教員が深く柔軟な学びを支えます。

人文学専攻

Division of Humanities

- 多様な分野を網羅しており、人文学を総合的かつ領域横断的に学ぶことができる人文学専攻。大学院生のみなさんの「学びたい」気持ちに柔軟に応えるカリキュラムとなっています。
- 考古学研究室、文化人類学研究室、博物館学研究室、アイヌ・先住民学研究室（2019年度開設）では、社会的な関心に対応した多彩な学修ができます。
- スラブ・ユーラシア学、アイヌ・先住民学など、北海道の地域的な特性を活かした「ここでしかできない学び」があります。

哲学宗教学講座

- 哲学倫理学研究室
- 宗教学インド哲学研究室

歴史学講座

- 日本史学研究室
- 西洋史学研究室
- 東洋史学研究室
- 考古学研究室

文化多様性論講座

- 文化人類学研究室
- 博物館学研究室
- 芸術学研究室

表現文化論講座

- 欧米文学研究室
- 中国文化論研究室
- 日本古典文化論研究室
- 映像・現代文化論研究室

言語科学講座

- 言語科学研究室

スラブ・ユーラシア学講座

- スラブ・ユーラシア学研究室

アイヌ・先住民学講座

- アイヌ・先住民学研究室

詳細は **p.09**

人間科学専攻

Division of Human Sciences

- 人間と社会に関する総合的な学修ができます。
- 大型研究プロジェクトの実績を活かした世界レベルの研究に基づく高度で実証的な学びができます。
- 実験、実習、フィールドワーク等、多彩な研究手法が学べます。
- 科学的アプローチに基づく人間科学研究の国際的拠点を活かした学びができます。

心理学講座

- 心理学研究室

行動科学講座

- 行動科学研究室

社会学講座

- 社会学研究室

地域科学講座

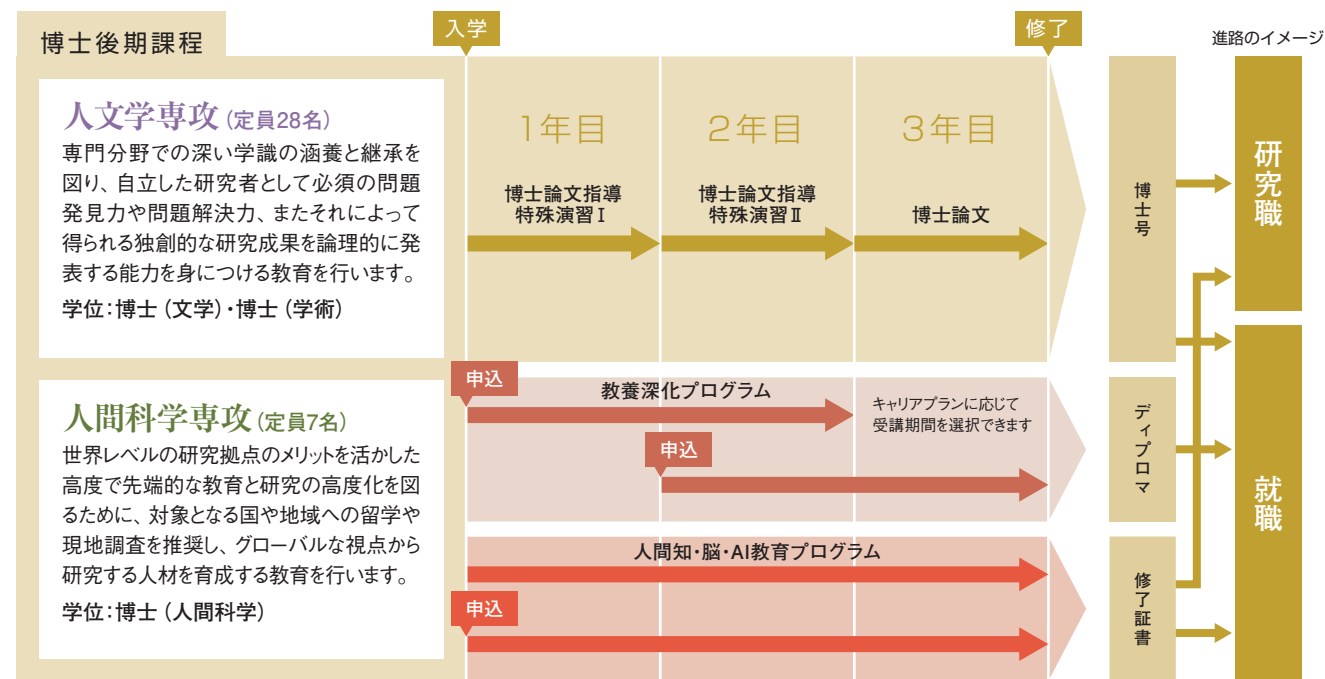
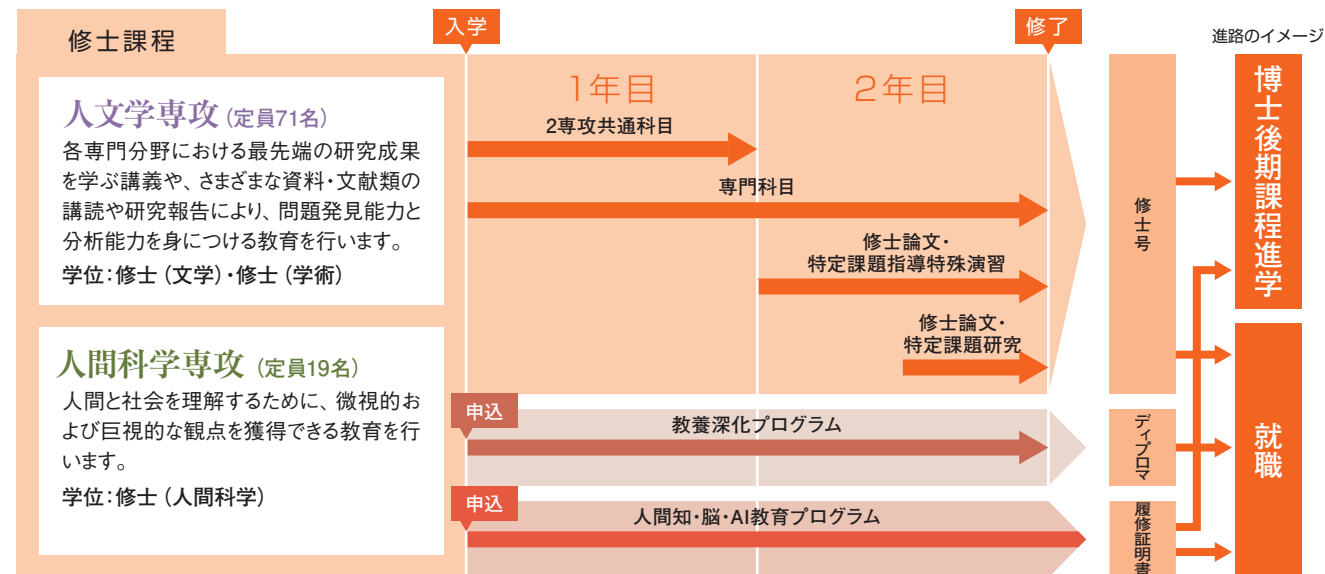
- 地域科学研究室

詳細は **p.31**

- 2専攻共通科目を開設。
俯瞰的な視野で
人文・社会科学を広く学修します。

2019年度より開講している「人文社会構造論」「複合環境文化論」「多文化共生論」「総合社会情報論」「研究倫理・論文指導特殊講義」は、各専攻の所属講座が協力して展開する2専攻共通の授業です。専攻をまたいで人文・社会科学の多様な分野を広く学修することを通して、俯瞰的な視野から人間と社会を学ぶと同時に、学際的な研究手法の知識を深めることができます。

- ## ● キャリアプランに応じて必要な学修ができる履修モデル



教養深化プログラム、人間知・脳・AI教育プログラムの詳細は **p.05-p.06**

- ## ● 文学院が目指す人材像

人文学専攻

- 各領域に関わる理論的あるいは実証的な基礎研究、さらに現代社会の諸問題をめぐる研究において、それぞれの研究の方法を身につけ、これまでの研究を適切に理解するとともに、必要に応じて現地調査を含むデータ収集とその処理・分析を的確に行う能力を備えた人材。
- 異文化に対する知識とその深い理解力、さまざまな地域や民族がかかえる現代的課題を具体的に把握する観察力と分析力を基盤とした、高度の専門性を必要とする職業を担う人間としての総合的な能力を備えた人材。

人間科学専攻

- 認知心理学、社会心理学、認知科学、行動科学、社会学、地域社会学、人文地理学、社会生態学に関する専門知識を備えた人材。
- 人間と社会の理解に向けた科学的・実証的なアプローチにより研究を遂行できる能力を備えた人材。

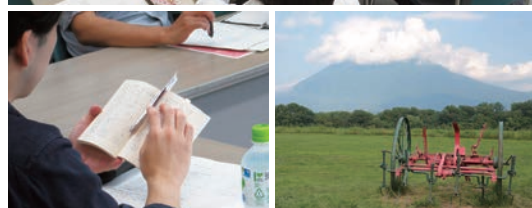
特色ある教育プログラム

教養深化プログラム

高度な専門知識を持った 即戦力人材に成長

教養深化プログラムの受講希望者は、
専門研究を深めていくかわら、
人文・社会科学諸分野の総合的な学修と、
社会で役立つジェネリックスキル^{※1}を学修することにより、
高度な専門知識を有し、社会で即戦力となる人材へと成長していきます。
博士後期課程の学生にとっても幅広いキャリアへの扉が開けます。

※1) ジェネリックスキル
社会人として活躍するための能力のこと。具体的には「知識活用力」、「課題解決力」、「コミュニケーション力」、
「チームワーク・リーダーシップ」等の社会で役立つ汎用的な力を指す言葉として使われています。



プログラムの特徴

人文・社会科学の総合的な学修

研究室単位の専門科目の学修とともに、人文社会科学の諸分野を横断する学修プログラムを発展的に学びます。

文理融合・学際的な学修

数理的思考やデータの分析・活用方法を学ぶとともに、自然科学の最先端の知に触れ、自らの専門知識をベースに自然科学への理解を深めます。

社会と繋がる実践を重視

先端人材育成センター、CoSTEP^{※2}と連携した実践的なプログラムにより、高度なジェネリックスキルが身につきます。

※2) CoSTEP:北海道大学高等教育推進機構科学技術コミュニケーション教育研究部門。科学技術の専門家と市民の橋渡しをする人材を育てる、教育研究組織。

受講の流れ

北海道大学大学院 入学

修士課程 / 博士後期課程

〈受講対象者〉

北海道大学の大学院に在籍する修士課程・博士後期課程の学生

教養深化プログラム申込

原則として希望者全員が参加できます

教養深化科目群

●教養深化特別演習(基礎・総合)

基礎:多角的に分析し複合的に把握する能力を身につける。
総合:基礎で習得した能力を実践を通じてさらに向上させる。

●サイエンスリテラシー特別演習

数理的思考とデータ処理・活用法を知り、自然科学研究の最先端に触れ、的確に伝えるスキルを学ぶ。

●教養深化特別講義 多様な視点から物事を俯瞰的に捉える力を養う。

ジェネリックスキル科目群

●ジェネリックスキル特殊講義

「キャリアマネジメントセミナー」仕事において必要となる実践的なスキルや考え方を身につける。

●ジェネリックスキル特別演習

「キャリア形成」企業等で活躍するゲストの講演からキャリア形成の視野を広げる。

修了要件を満たすとディプロマを取得

国内外の企業、公的機関等で活躍できる人材に!



教養深化プログラムの詳細は、右のQRコードよりご覧いただけます。

<https://cep.let.hokudai.ac.jp/>

人間知・脳・AI教育プログラム (CHAIN^{※3}教育プログラム)

「人間」にも科学技術にも通じた 高度人材に成長

人文社会科学・脳科学・AI研究が交差する地点で
「人間」について多角的に学ぶ文理融合型教育プログラム。
人文社会科学、神経科学、人工知能等の各領域を専攻する大学院学生が、
所属大学院を超えて学際的共同研究に参画し、
関連する知識・技能を学びながら、それぞれの専門的知見・技能をも深めていきます。
必要な単位を修得した履修生には、修了証書が授与されます。

※3) CHAIN
Center for Human Nature, Artificial Intelligence, and Neuroscience
人間知・脳・AI研究教育センター



プログラムの概要

プログラム・ベースド・ラーニング

人文社会科学、神経科学、人工知能の各領域の中から、自分の専門としない分野の基礎知識とスキルをコースワークを通して学ぶ。

プラットフォーム・ラーニング

国内外から招へいた第一線の研究者によるSS^{※4}とWS^{※5}に参加。学際的議論を通して研究の最先端に触れ、ネットワーク形成も行う。

プラクティカル・ラーニング

学内外の研究室へのインターンシップ、海外の研究室への研究留学、連携企業でのインターンシップを通して、自ら得た知識・スキルを実地に生かす。

※4) SS :サマースクール ※5) WS:ウィンタースクール

履修モデル

修士課程1年から5年間で履修する場合

人文社会系	自然科学系
●修士課程1年目 人間知序論I,II/ 入門ベジアン・モデリング/ ディープラーニング演習/SS/WS	●修士課程1年目 人間知序論I,II/ ディープラーニング演習/ 脳科学入門/SS/WS
●修士課程2年目 脳科学入門/SS/WS	●修士課程2年目 哲学特殊講義/SS/WS
●博士後期課程1年目 国内研究室インターン/SS/WS	●博士後期課程1年目 研究留学/SS/WS
●博士後期課程2年目 研究留学/SS/WS	●博士後期課程2年目 企業インターン/SS/WS
●博士後期課程3年目 SS/WS	●博士後期課程3年目 SS/WS

博士後期課程1年から3年間で履修する場合

人文社会系	自然科学系
修士課程1・2年目 各自専門の修士課程を修了	
●博士後期課程1年目 人間知序論I,II/ 国内研究室インターン/ 脳科学入門/ ディープラーニング演習/SS/WS	●博士後期課程1年目 人間知序論I,II/ 哲学特殊講義/ 研究留学/SS/WS
●博士後期課程2年目 研究留学/ 入門ベジアン・モデリング/SS/WS	●博士後期課程2年目 脳科学入門/ 企業インターン/SS/WS
●博士後期課程3年目 SS/WS	●博士後期課程3年目 SS/WS

各大学院での博士号取得と同時に「人間知」の修了証書を取得

本プログラム終了後は、研究者として学際的研究に従事したり、「人間」にも科学技術にも通じた高度人材として企業に就職したりといった道があります。博士後期課程修了者の就職も支援しています。



人間知・脳・AI教育プログラムの詳細は、右のQRコードよりご覧いただけます。

<https://www.chain.hokudai.ac.jp/education/>

★ 支援制度

この充実度は北大文学院ならではの 研究キャリアを国際的かつ豊かに積み重ねることができる支援制度

北海道大学大学院文学院には、独自の研究支援制度と豊かな研究環境が整っています。「国際的な研究キャリアを築きたい」という高い志と、「経済的な負担をできるだけ軽くしたい」というリアルな研究生生活事情に応える充実の支援環境を存分にご活用ください。2021年度より博士後期課程学生への多角的な支援が拡充され、若手研究者がより安心して研究に専念できるようになりました。

共生の人文学プログラム 大学院生の研究活動にかかる経費支援「共生の人文学プロジェクト」(Graduate Grant Program)を実施しています。

旅費支援

大学院生の国際学会・全国学会での研究発表および研究調査にかかる旅費を支援します(主として航空運賃の支援、宿泊費は含まれません)。

利用した先輩の声

渡航費を気にすることなく、国際学会にチャレンジできました。学会で国内外の研究者と交流することで、研究ネットワークを広げることができました。発表をもとに論文を執筆し、学術雑誌投稿につながりました。

オンライン開催 学会参加費支援

オンラインで開催される国際学会・全国学会で大学院生が研究発表をする場合の参加費を支援します。

利用した先輩の声

コロナ禍でも研究を止めることなく、学会で成果発表をおこなうことができました。支援を受けた実績を、学振特別研究員などの申請書に業績として記載することができました。

校閲費支援

国際学会・国際研究集会での発表および国際学術雑誌、文学研究院の英文ジャーナル等への積極的な投稿を促すために、大学院生に対して発表原稿や投稿原稿の校閲(英文等の添削)料を支援します。

利用した先輩の声

2021年度より支援の上限が増額され、より使いやすくなりました。支援を受けることで、論文執筆スキルと語学力の両方が磨かれます。

若手研究者支援セミナー 若手研究者向けに各種支援情報を届けるセミナーを開催しています。大学院生の研究支援や経済支援に関するさまざまな情報を提供します。

大学院生支援セミナー

文学院の新入生向けに、大学院生が受けられる支援全般を紹介するセミナー。文学院だけではなく、全学で行っている支援についても紹介します。

学術出版支援セミナー

学位論文を学術書として出版したい、専門的な単著出版したい方向けの学術専門書の出版を支援するセミナーです。著書出版経験豊富な教員や出版社編集担当者からの話題とともに出版助成情報も提供します。



申請書の書き方セミナー

学術振興会特別研究員への申請を支援するため、申請書を書く心構えや基礎情報を提供します。特別研究員に採用された若手研究者や審査経験のある教員に経験談やアドバイスを語っていただきます。

申請書の書き方相談会

学術振興会特別研究員への申請を支援するため、個別相談を通してより実践的なアドバイスを受け、採択に向けて申請書をブラッシュアップすることを目的に開催しています。

海外研究支援セミナー

海外の研究機関や大学で研究をしたい、学位取得後は、海外でキャリアを積みたい、海外でフィールドワークをしたい等、海外に研究の場を広げてアカデミックキャリアを積んでいくための「はじめの一步」を後押しするためのセミナーです。

キャリアパス支援セミナー

博士号取得後の進路について、文学院(文学研究科)で学位を取得した方がさまざまなキャリアパスプランについて紹介します。

Advanced-COLA

人文・社会科学系の博士課程を修了後、産業界にその活躍の場を見出された企業人をお招きし、大学の中では知ることのできない企業活動の実態やその魅力を語っていただくとともに、人文社会科学系の学位の意義についても議論するイベントです。(先端人材育成センターと共催)

就職ガイダンス

キャリアセンターおよび外部講師による講演、内定者の体験談、質疑応答を中心としたガイダンスです。

研究環境・経済支援 文学院では、大学院生の研究環境の整備と経済支援に力を入れています。

学振特別研究員・フェローシップ制度

博士後期課程学生への研究および経済支援が拡充されています。文学院の大学院生がチャレンジできる制度は以下のとおりです。

●日本学術振興会特別研究員

学術研究の将来を担う創造性に富んだ若手研究者の養成・確保を目的に、日本学術振興会が博士後期課程学生、博士學位取得後5年未満の研究者に支給するものです。

▶大学院生(DC1・DC2)研究費:年額150万円以内、生活費相当額:年額240万円

●アンビシャス博士人材フェローシップ

文部科学省「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」による制度。北海道大学では[情報・AI]分野(人間科学専攻大学院生対象)と[SDGs]分野(人文学専攻大学院生対象)の2種類があります。それぞれ、データ駆動型科学領域における人材育成、および、SDGsが目指す社会の実現を果たす人材育成を目的とします。

▶研究費:年額40万円、生活費相当額:年額180万円

●DX博士人材フェローシップ

科学技術振興機構「次世代研究者挑戦的研究プログラム」による制度。DX改革を牽引する研究人材の育成を目的とします。

▶研究費:年額40万円+α、生活費相当額:180万円

※フェローシップ制度は、後継事業の募集採択状況によって変更される可能性があります。

研究推進室では、URA(リサーチ・アドミニストレーター)が、これらの申請書の添削支援を行っています。

充実した図書室

北海道大学附属図書館本館と北図書館に加えて、文学部図書室を含む16の部局図書室があり、総蔵書数は約378万冊、貴重な北方関係資料の所蔵など、質・量ともに国内屈指の文献資料を誇ります。文学部図書室は、蔵書数約21万冊、受入雑誌数は約3,560種あります。北大生であれば、リモートアクセスにより、いつでもどこからでも蔵書検索や電子ジャーナルへのアクセスが可能です。



論文発表の場を提供

大学院生の研究成果および研究活動を広く内外に公表するために『研究論集』および『Journal of the Faculty of Humanities and Human Sciences(英文ジャーナル)』という論文発表の場を設けています。発表論文は、北海道大学学術成果コレクション(HUSCAP)上で公開されます。



TA・TF・RA制度

●ティーチング・アシスタント(TA)制度

学部および全学教育科目の教育補助として、優秀な大学院生をTAとして採用し、経済支援をしています。

●ティーチング・フェロー(TF)制度

博士後期課程の優秀な大学院生をTFとして採用し、経済支援をしています。TFは、教員と分担しながら授業を担います。

●リサーチ・アシスタント(RA)制度

研究プロジェクト等を円滑に進める研究補助として、優秀な博士後期課程の大学院生をRAとして採用しています。手当を支給することにより、研究に専念できる環境を提供します。



院生研究室

講座または研究室ごとに院生研究室が設けられています。2022年度からは、博士後期課程学生専用の院生研究室も設置されました。



授業料減免・奨学金

入学科、授業料の納入が困難な学生に対して、入学科の減免または徴収猶予および、授業料の減免制度があります。また奨学金制度も利用できます。

院生図書費支援

大学院生は毎年、一定金額の範囲内で図書を購入することができます。購入図書は学位論文執筆期間中、優先的に利用することができます。

受賞成果

2022年度 受賞者情報 文学院の豊かな支援・環境を活用して、数々の研究成果が発表されています。栄えある受賞者が続々輩出されています。

- 応用哲学会年次研究大会 応用哲学会発表賞 稲荷森輝一さん(博士後期課程)
- 日本人間行動進化学会 若手発表賞 米村朱由さん(修士課程)
- 小林秀雄賞 朴舜起さん(博士後期課程)
- 新北海道美術協会展新人賞 石正萌さん(修士課程)
- 日本グループ・ダイナミクス学会 優秀学会発表賞 貴堂雄太さん(博士後期課程)
- このほかの年度の受賞情報は <https://www.let.hokudai.ac.jp/research/award-record> よりご覧いただけます。
- 日本認知科学学会 大会発表賞 晴木祐助さん(博士後期課程)
- 日本心理学会大会 特別優秀発表賞 市村風花さん(修士課程)

さらに詳しい支援情報は、右のQRコードよりご覧いただけます。

<https://www.let.hokudai.ac.jp/general/gshhs-portal#1-5>



留学支援

北海道大学では51ヵ国の国や地域において、201機関と197の大学間交流協定を結び(2023年3月現在)、グローバル教育や研究を推進しています。文学院では、24大学等と部局間交流協定を締結し、そのうち13大学と「学生交流覚書」を取り交わし、独自の交換留学制度を設けています。教務担当の国際交流担当者が、文学院生向けの「留学ガイドブック」を発行し、部局間交流協定校および大学間交流協定校への留学を支援しています。

部局間交流協定校

- 台湾 国立雲林科技大学
- 中国 南京理工大学
- クロアチア ザグレブ大学
- イギリス サセックス大学
- フランス パリ大学
- 台湾 国立高雄大学
- 中国 特別行政区 香港大学
- イギリス ロンドン大学
- イタリア バドヴァ大学
- 中国 南京農業大学
- アメリカ アリゾナ大学
- イギリス マンチェスター大学
- ドイツ デュースブルク・エッセン大学

人文学専攻

人文学を総合的かつ領域横断的に学ぶ

2019年度開設 考古学研究室、文化人類学研究室、博物館学研究室、アイヌ・先住民学研究室の4研究室

思想・文化・歴史・地域・言語・文学の領域を幅広くカバー

主な講義題目

哲学倫理学研究室	■英米哲学論文講読 ■現象学と意識・認知の哲学 ■現代規範倫理学・メタ倫理学 ■古代中世アリストテレス注解研究 ■Critical Theory of Politics ■フランス・スピリチュアリズム研究
宗教学インド哲学研究室	■部派仏教文献研究 ■新約聖書正典と初期キリスト教の成立 ■宗教学と死生学・生命倫理 ■インド哲学専門文献講読
日本史学研究室	■植民地朝鮮の社会と文化 ■明治憲法体制と国家の運営 ■近世蝦夷地在地社会論 ■古代法制史料の研究 ■中世日本社会論
東洋史学研究室	■宋代史料講読 ■アラブ・イスラーム史研究 ■中国近代史研究
西洋史学研究室	■近現代ヨーロッパ史研究 ■アメリカ史研究 ■フランス近現代史研究 ■西洋古代史研究 ■中近世ヨーロッパ史研究
考古学研究室	■先史文化の土器と社会 ■物質文化と先史社会 ■考古学の実践 ■環境考古学と動物考古学
文化人類学研究室	■人類学(再)入門 ■人類学を実践する
芸術学研究室	■西洋美術史研究の現在 ■芸術学研究報告 ■美学文化学研究報告
博物館学研究室	■博物館と市民・地域社会 ■動物と人の関係史
欧米文学研究室	■Scholar and Scholarship ■アメリカ文学研究 ■20世紀フランス文学研究 ■ロシアの文学研究 ■古代ギリシア語文献読解
日本古典文化論研究室	■古代文学研究 ■中世文学研究 ■浮世草子研究
中国文化論研究室	■「論語注疏」研究 ■明清民国文学研究 ■「朱子語類」研究
映像・現代文化論研究室	■日本現代文化の諸問題 ■映像解析の諸相 ■戦間期における女性表象 ■現代芸術と文芸
言語科学研究室	■アイヌ語学の諸問題 ■認知文法概説 ■ロマンス語対照言語学 ■日本語研究のトピックス ■古典日本語研究の方法と実践 ■日韓対照研究 ■ロシア語学・スラブ語学の諸問題
スラブ・ユーラシア学研究室	■Imperial Russian History ■ロシア帝国論 ■中東欧・ロシア近現代史 ■中欧・バルカン半島の言語と社会 ■ロシア文化論 ■スラブ・ユーラシア地域の経済 ■中東欧比較政治論 ■北極域の国際関係 ■中央ユーラシアとロシアの政治 ■比較の中の中央ユーラシア史
アイヌ・先住民学研究室	■アイヌ・先住民政策史 ■先住民の言語と文化 ■アイヌ・北方先住民民族史 ■先住民と交差性(インターセクショナリティ) ■先住民と文化資源 ■アイヌ・先住民学総論 ■国際先住民学演習

修士・博士研究テーマ例

哲学倫理学研究室	○修士 アフロディシアスのアレクサンドロスにおける理想的生 / カントの徳理論における感情の役割とその位置づけ ●博士 理念なき絶対観念論—F. H. Bradleyの形而上学についての試論—
宗教学インド哲学研究室	○修士 精神医学と宗教—神谷美恵子と神田橋保治と緩和医療現場の精神科医のインタビューを通じて / 親鸞『浄土和讃』の研究 ●博士 ヨシヤの改革:「エサルハドン王位継承誓約文書」と「申命記」
日本史学研究室	○修士 第二次世界大戦後の南サハリンにおけるソ連人と日本人との共生 / 詰命を中心とした日明外交文書の研究 ●博士 連合艦隊論
東洋史学研究室	○修士 「西征期」中国共産党の経済財政政策—西北辦事処の文書を中心に— / 帝国と共和国のあいだ—トルコ文学者ハット・ズィヤール・ウジャククルギルの回顧録より— ●博士 17世紀オスマン朝・ヴェネツィア間の「海賊」をめぐる海上秩序
西洋史学研究室	○修士 道徳転換運動における亡命ロシア知識人の「大國主義」思想—1921-1924年— / コンスタンティヌス朝におけるローマ市首都長官—首都長官人事と皇帝・元老院間の関係性を中心に— ●博士 1654年「帝国宮内院令」をめぐる諸問題
考古学研究室	○修士 縄文文化期から続縄文文化期における人類の自然環境への適応—石狩低地帯を中心に— / 岩手県宮野貝塚出土動物遺存体の研究 ●博士 埋葬環境の判別方法を用いた墓址の考古学的研究
文化人類学研究室	○修士 The Elementary Forms of Punk Life:Reimagining "Collective Effervescence." Post-COVID 19 / とともに生きるという「資源管理」小川原湖ジミ漁の漁業活動の過程から見た人間—環境関係の考察 ●博士 フィンランドの樹木とともに生きる世界—死者のカルシッコに見る「エラマ」の物語—
芸術学研究室	○修士 草土社の風景画と郊外 / 会所における唐物受容から室町水墨画へ至る道筋についての考察 ●博士 狩猟塔トーレ・デ・ラ・パラーダの絵画装飾研究—16,17世紀のスペイン宮廷における君主教育と宮廷画家ディエゴ・ベラスケスとの関連から—
博物館学研究室	○修士 博物館における自然史資料の保護に関する研究—展示資料の変遷色挙動について— / 住民参加の地方史研究における地域博物館の位置付け—住民参加の自治体史編纂活動を中心に— ●博士 博物館における地域連携活動の社会的効果—伊丹市昆虫館「鳴く虫と郷町」を対象とした実践事例から—
欧米文学研究室	○修士 ロシア文学のなかのサハリン—E. ヴェルキン「サハリン島」を中心に— / The Will to Resist: Adrienne Rich's Passage against Ageism ●博士 The Eternal Pursuit of Arbitrary God: Melville's Method of Provoking Immortality
日本古典文化論研究室	○修士 賀茂真淵の祝詞研究 祝詞の神の注釈からみた神話受容史上の位置づけをめぐる / 近世怪談物の研究 ●博士 中世の知と文芸
中国文化論研究室	○修士 「易林」における神仙思想—西王母を中心に / 「西遊補」における情念幻燈の入り口—「色」を巡る考察 ●博士 陶淵明の隠逸詩とその思想
映像・現代文化論研究室	○修士 映画におけるスプリット・スクリーン—歴史と運用 / 夢野久作「ドグラ・マグラ」論—騙られる狂気— ●博士 ハンガリーの映画監督ヤンチャール・ミクローシュの空間表象に関する研究
言語科学研究室	○修士 現代日本語における数量詞使用の研究 / 日本語—モラ音素の音声習得を妨げる要因について—中国語を母語とする学習者を対象に— ●博士 現代日本語交感発話の社会語用論的研究
スラブ・ユーラシア学研究室	○修士 L. N. グミリョフに見られる無自覚の構築主義—主観的定義に基づくエトノス理論とその諸機能— / 60年代ソ連映画にみる中央アジア表象:他者表象と自己表象の比較分析で見えてくるアイデンティティとソ連的イデオロギーの在り方 ●博士 ソヴィエトの破片と生きる:「集団行為」の半世紀
アイヌ・先住民学研究室	○修士 Rethinking of Microblade Adaptation on Hokkaido Island: On the basis of Oshorokko type and Tougeshita type microblade cores assemblages / アイヌ文化における怪談としての妖刀伝承—日中との比較から— ●博士 アイヌ文化とアイヌ文化財制度の研究—台湾先住民文化財との事例比較—

他の修士・博士論文の研究テーマはウェブサイトにてご覧いただけます。 <https://www.let.hokudai.ac.jp/general/master-doctor-thesis>



北海道だから学べる
豊かな人文学の
世界がここに—。

哲学宗教学講座

研究領域としては、哲学、倫理学、宗教学、インド哲学の各分野を含みます。各分野の主要テキストと本格的に取り組むには複数外国語の習得が欠かせず、古典語が必要となる領域もあります。人類の連綿たる営為の結晶である哲学や宗教をめぐるさまざまな考察の吸収・継承・展開を目指して、不断に思考力・感性・表現力を磨くことが要求されます。伝統的な原典研究から、先端的・理論的な研究、宗教現象の実証的研究、さらには生命・環境倫理学、AIや神経科学との学際的研究など現代の諸問題に関わる研究まで、多様な研究が行われています。



●哲学倫理学研究室



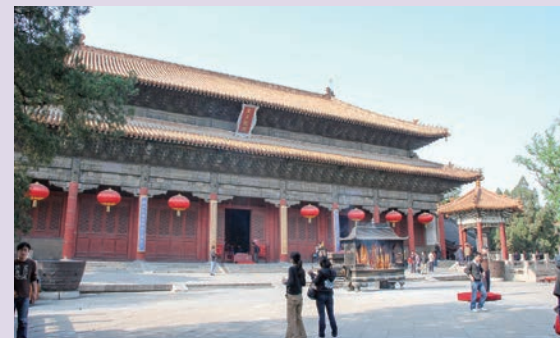
●宗教学インド哲学研究室

歴史学講座

「日本史学研究室」「東洋史学研究室」「西洋史学研究室」「考古学研究室」から構成されています。歴史学は、いまこの世界が成り立っている所以を過去に遡って探究する学問です。また、それと同時に、現代の世界の在り方を相対化するための手がかりを過去に求めようとする学問でもあります。そしてなによりも、史資料を通して過去の人々との「対話」を楽しむ学問です。当講座は、日本はもちろんのこと世界中の幅広い地域にわたって、このような試みのための場を提供しています。



●日本史学研究室



●東洋史学研究室



●西洋史学研究室



●考古学研究室

文化多様性論講座

この講座では、「文化人類学」、「芸術学」、「博物館学」という性格が異なる3つの学問分野の教員が、〈文化多様性〉と〈フィールドワーク〉という共通項で教育・研究を行います。人類の文化の多様性と共通性を研究する「文化人類学」。古今東西の美術をはじめ、音楽、文芸、演劇などの多様な芸術を対象に研究する「芸術学」。そして、これらの成果を、展示を含めた事業を通して、多様なミュージアムでどのように展開するかを研究する「博物館学」。これらの研究を、机上で文献をひもとくだけでなく、実際にその現場で考えるフィールドワークを通して進めていきます。



●文化人類学研究室



●芸術学研究室



●博物館学研究室

表現文化論講座

欧米文学、日本古典文化論、中国文化論、映像・現代文化論の4研究室によって構成され、文学・思想・映像・大衆文化などを含む幅広い文化を教育・研究の対象とします。英語圏、フランス、西洋古典、スラブ語圏、中国、日本の各地域と言語、および古代から現代までの時代にわたって、人間が表現してきた豊かな作品を、多様な批評理論・映像論・文化理論に基づき、理論的かつ具体的に分析し評価することを主眼とします。言語文化や視覚メディア文化を深く研究したい方を歓迎いたします。



●欧米文学研究室



●日本古典文化論研究室



●中国文化論研究室



●映像・現代文化論研究室

言語科学講座

言語を科学的に捉える視点から、一般言語学と個別言語学について、記述的、理論的、実証的、応用的な研究を行います。英語、フランス語・ロマンス語、ロシア語・スラブ語等のヨーロッパ系言語学、朝鮮語やアイヌ語を中心とするアジア系言語学、国語学、日本語学などの個別言語学のほか、言語学の多様なアプローチでことばを研究しています。歴史言語学や社会言語学、音声・音韻・形態・統語・意味・語用の全般に関して言語現象を広く多層的に学びます。



●言語科学研究室

スラブ・ユーラシア学講座

スラブ・ユーラシア（ロシア・中央ユーラシア・東欧）は、豊かで多様な文化を持ち、現代世界を考察するうえでも欠かせない地域です。本講座は、この地域の研究の世界的拠点であるスラブ・ユーラシア研究センターの教員が担当しています。センターが所蔵する日本最大規模の図書・資料を利用し、センターに滞在する国内外の研究者との交流や、頻繁に開催される国際シンポジウム・研究会から刺激を受けながら、歴史、政治、経済、国際関係、文学・文化、言語、人類学などの諸分野を研究することができます。



●スラブ・ユーラシア学研究室

アイヌ・先住民学講座

世界には70カ国以上の国におよそ5000の先住民族が暮らしています。先住民学は、ほかの学問領域と比べると比較的新しい研究領域ですが、研究課題は幅広く、先住民族を取り巻く文化資源、生活環境、経済社会開発など様々な課題が含まれます。研究の手法も課題ごとにそれぞれ独自の手法が必要であり、多角的な検討が求められます。アイヌ・先住民学講座では、歴史学・言語学・文化人類学・博物館学・法学・考古学の教員が研究しており、アイヌ民族と世界の先住民族に関する研究を領域横断的に学ぶことができます。



●アイヌ・先住民学研究室

哲学宗教学講座

哲学倫理学研究室

哲学倫理学研究室では、古代ギリシア以来の西洋哲学・倫理学の原典研究をはじめ、分析哲学・現象学などの現代哲学や日本哲学、論理学やメタ倫理学などの理論的研究、応用倫理学諸分野、神経科学やAI・ロボティクスとの学際的研究など、古今の様々な理論や諸問題に関する研究・教育を行っています。

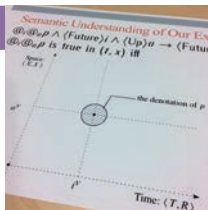
Lab.letters 教員からのメッセージ

佐野 勝彦 准教授

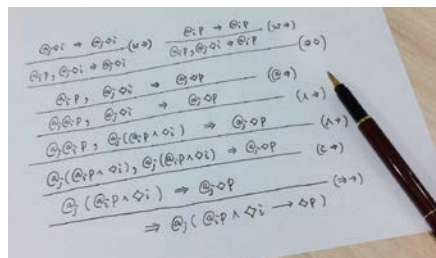
SANO Katsuhiko

研究内容

様相論理を中心とする非古典論理とその応用について研究している。知識・信念に関わるパズルの分析、疑問文の意味論、チューリングの思想、論理学の歴史にも関心がある。



▲エニグマ解読で知られるイギリスの論理学者 A. チューリングの論文を翻訳・解説した共著も発表。



▲「我々はカレンダーや手帳の情報をもとに将来の予定を把握している」という事実を、様相論理をさらに拡張したハイブリッド論理に基づき形式化・正当化すると、こう表現される。

□と◇の多彩な組み合わせで
世界を表現する様相論理

賢人アリストテレスから始まる論理学とは、世界を正しくかつあますところなく記述するために、「特定の内容に拠らずつねに成立する論理学的真理」を追究する学問のことです。さまざまな先人たちが独自のアプローチで、世界をどう表現するかという取り組みがいのある難題に挑んできました。そのなかで私は、「pは可能的(◇p)」あるいは「pは必然的(□p)」といった可能性や必然性を取り扱う様相論理を切り口に、さらに□や◇で表現する形式化の多次元的な組み合わせの研究に取り組んでいます。時間や空間、可能性、さらにはエージェントなどの様々な構造の軸をミックスさせることで表現できる世界がより豊かになっていく。そのロジックをSNSのFacebookなどに照らし合わせるとどうなるのか等の応用を進めています。

「壊れない形式化」を目標に
手を動かす習慣をつける

北海道大学では、学部と大学院の双方で論理学の講義が毎年定期的に開講されることから、論理学研究を重要視している姿勢が感じられ、研究者としては大変心強い環境が整っています。堅牢なロジックを積み上げていくには、実際に自分の手を動かして記述する訓練が不可欠です。学生の皆さんには、記号と意味が破綻なくつながっているかを、書く行為を通して自分の頭の中で確認する習慣を身につけてほしいと考えています。哲学倫理学研究の元同僚の千葉恵先生がおっしゃっていた「壊れないセンテンスをつくる(ことが大事)」という言葉を私なりにお借りするとしたら、今後は「壊れない形式化を構築すること」を大きな柱に据え、皆さんの学びを後押ししていきたいです。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

蔵田 伸雄 教授 KURATA Nobuo

■研究分野
応用倫理学、規範倫理学・メタ倫理学、
西洋近現代哲学(特にカント)

田口 茂 教授 TAGUCHI Shigeru

■研究分野
西洋近現代哲学(特に現象学)、
意識の学際的研究、日本哲学

村松 正隆 教授 MURAMATSU Masataka

■研究分野
近現代フランス哲学、近現代倫理学

近藤 智彦 准教授 KONDO Tomohiko

■研究分野
古代ギリシア・ローマ哲学、倫理学

佐野 勝彦 准教授 SANO Katsuhiko

■研究分野
論理学(特に非古典論理、哲学的論理学)

宮園 健吾 准教授 MIYAZONO Kengo

■研究分野
心の哲学、心理学の哲学、精神医学の哲学、
美学、認識論、近世哲学

ヤコブス・ケリン・アルテミス 特任准教授 JACOBS Kerrin Artemis

■研究分野
実践哲学と文化省察

野村 恭史 助教 NOMURA Yasushi

■研究分野
現代分析哲学(特にワイトゲンシュタインの哲学)

哲学宗教学講座

宗教学インド哲学研究室

宗教学インド哲学研究室は、宗教学・宗教史学、新約聖書学、死生学、仏教学、インド哲学などを研究分野とする教員によって構成されており、所属する大学院生は、関連領域の研究職や深い専門知識を必要とする一般職への就職をめざし、上記分野に関連したテーマについて研究を深め学位を取得していきます。

Lab.letters 教員からのメッセージ

宮嶋 俊一 教授

MIYAJIMA Shunichi

研究内容

宗教学理論、方法論、学説史研究。及びそれを様々な宗教現象の分析・比較研究へ応用することの試み。「スピリチュアリティ」研究、宗教と生命倫理について死生学的な視点を含めた研究、いのちや環境をめぐる問題に対する近代文明批判の立場からの研究など。



▲ハイラーの宗教理論を研究した『祈りの現象学』(ナカニシヤ出版)を2014年に出版。ハイラーの著書『祈り』(英語版)の表紙を飾った鳩のアイコンを本書でも形を変えて継承した。



▲2007年に訪れたネパールのカトマンズ。現地の宗教施設を訪ね、直接話を聞いてきた。

古今東西の宗教現象に目を向け
「祈り」を考えるハイラーに共感

「祈り」という単語からすぐにキリスト教を連想する人は多いと思いますが、ドイツの宗教学者フーリドリヒ・ハイラーは古今東西から「祈り」と呼ぶ宗教現象を集めて分析した大著『祈り』を発表し、第一次世界大戦後のドイツ国民に広く受け入れられました。これまでハイラーは西洋中心主義的であると批判されてきましたが、宗教学における比較研究の重要性を鑑みて、近年では『祈り』から肯定的に継承すべきものを読み取ろうとしています。北海道大学にはキリスト教研究の伝統がありますが、各研究室の多彩な先生方との連携により研究の幅は広がります。総合大学である利点を活かせば死生学の問題に関して他学部との共同研究も可能で、豊かな膨らみのある宗教研究が実現できる環境です。

心酔と無関心の両極から逃れ
理解するための狭間に立つ

一般に信仰に基づく研究では「私」の問題が大きな比重を占めますが、宗教学は「彼／女」が問題をどう受け止めているのかを探る、他者理解を目指す学問です。学生指導ではつねに、研究対象に対して学問たりうる適切な距離を保つよう自覚を促しています。日常生活においても、ある事柄に対して「心酔」と「無関心」の両極端では理解が深まりません。両極の狭間で立ち位置を模索しつつ対象と向き合うという、人生においても大切な姿勢を宗教学は教えてくれます。学生の皆さんには、研究室に閉じこもらず、海外を含めた“外”に飛び出す楽しさを、知ってほしいと思います。私自身、ドイツへの留学経験もありますが、海外からの留学生も、ぜひ北大で宗教学を学んで欲しいと思います。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

林寺 正俊 教授 HAYASHIDERA Shoshun

■研究分野
仏教学、仏教思想史

宮嶋 俊一 教授 MIYAJIMA Shunichi

■研究分野
宗教学、死生学

佐々木 啓 特任教授 SASAKI Kei

■研究分野
新約聖書学、宗教学

眞鍋 智裕 准教授 MANABE Tomohiro

■研究分野
インド哲学、インド哲学史

歴史学講座

日本史学研究室

日本史学研究室は、古代・中世・近世・近現代についての、日本および中国大陸・朝鮮半島・北方地域を視野に入れた実証的研究を特徴としており、これまで多数の研究者が輩出してきました。学内には日本史分野の専門書が揃い、史料（北方史一次史料および各時代・各分野の刊本資料・復刻版等）も豊富に集積しており、研究環境に恵まれています。

Lab.letters 教員からのメッセージ

権 錫永 教授

KWEON Seok-Yeong

研究内容

「帝国主義」研究（国家のあり方としての「帝国主義」と思想としての「帝国主義」を縫り合わせた研究）、朝鮮社会文化研究（朝鮮社会の核となる文化を対象とした日韓関係史・帝国史研究）、北方論の研究。



▲1916年、朝鮮経営に役立たせる目的で、日本陸軍の調査資料を元に刊行。



▲1909年に出版されたこの本で浮田和民は、倫理的帝国主義について論じた。

知識人の思想と史料の融合
帝国と植民地の重なりを描く

知識人の思想を縦系、公文書などの史資料を横系として日本近代・植民地の歴史を描いていく、それが私の研究です。日本の帝国主義とは何だったのか？それを「悪」とする前提から離れて、根本的かつ理性的な批判を繰り返しています。この関心は「植民地とは何か」という問いにもつながります。

植民地朝鮮の実相を明らかにするために私が選んだのは、オンドル（暖房システム）・白衣・陶磁器といった朝鮮の生活文化の社会史研究です。韓国で出版した『オンドルの近代史』（2010年）はその成果の一つ。オンドルの近代史はそのまま帝国日本と植民地朝鮮の「重なり合い、絡まりあった歴史」です。それは日本・日本人を抜きにして語れない、隠れた日本近代史の一部分なのです。

根本的な問いを大切に
恍惚感あふれる研究世界へ

ゼミでは、福沢諭吉をはじめとする様々な知識人の著作を読むこともあれば、「極秘」と記された公文書を読み続けることもあります。一緒にやっているうちに、歴史問題についてのユニークで根本的な問いが可能になるはず。朝鮮研究のエキスパートを育てるために、韓国語による専門のゼミも開講しています。

「恍惚と不安」。この言葉には研究者の卵の気持ちが凝縮されています。不安は誰にでもありますが、おそらく意義のある研究には恍惚感が伴うもの。私はその恍惚感あふれる世界への良き案内人でありたいと願っています。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

川口 暁弘 教授 KAWAGUCHI Akihiro

■研究分野
日本近代史、明治憲法史

権 錫永 教授 KWEON Seok-Yeong

■研究分野
日本近代思想史、植民地期朝鮮文化史

谷本 晃久 教授 TANIMOTO Akihisa

■研究分野
日本近世史、北海道地域史

橋本 雄 教授 HASHIMOTO Yu

■研究分野
日本中世史、東アジア海域史

吉田 拓矢 講師 YOSHIDA Takuya

■研究分野
日本古代史、天文暦算史

歴史学講座

東洋史学研究室

東洋史学研究室は、広く東洋諸地域を対象に歴史研究を行っています。地域は広大で使用する言語は多様です。漢文・現代中国語・ペルシア語・アラビア語・トルコ系諸語で書かれた膨大な史料がひっそりと皆さんの解説を待っています。縦書きや横書きで、竹簡・木簡・紙などに書かれた史料群が。

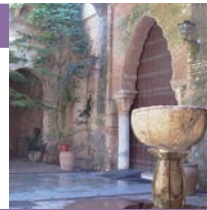
Lab.letters 教員からのメッセージ

佐藤 健太郎 教授

SATO Kentaro

研究内容

マグリブとアンダルス、つまりイスラーム期の北アフリカとスペイン・ポルトガルを対象に、ムスリム社会の歴史を研究しています。最近は、14世紀の歴史家イブン・ハルドゥーンの自伝の翻訳にも取り組んでいます。



▲アフリカ最北端の町セウタからイベリア半島を臨む。写真中央にそびえるのは海峡と同名の岩山ジブラルタル。わずか1時間の船便で対岸に到着する。（佐藤教授撮影）



▲モロッコの街角で売られていた日めくりカレンダー。左上のマスはグレゴリウス暦による「1997年1月1日水曜日」、右上はイスラーム暦「1417年シャアババン月21日水曜日」、右下は農事暦「農事の12月19日」、左下は礼拝時刻を記したもの。

イベリア半島と北アフリカ
境界線に息づくイスラーム史

キリスト教社会とイスラーム社会が交錯する西地中海は、一元的視点ではとらえきれない魅力あふれる地域です。私が留学していたモロッコではグレゴリウス暦とイスラーム暦の列記に加えて、古代ローマに由来するユリウス暦をも農事暦として併記するカレンダーが街角で売られていました。百年ほど前まではイスラーム以前の夏至祭・冬至祭に由来をもつアンサラやヤンナイルという祭りを祝う慣習が、イスラームの祝祭と並んで残っていたこともわかっています。私が重きを置くのは地理的な国境や宗派の境界線よりも、こうした生き生きとした人々の営み。地図上ではイベリア半島と北アフリカに分かれていながら、そこには豊かな多面性が息づく”境界線から見たイスラーム史”を自分なりの視点で掘り下げています。

偶然が「好機」に変わる
院生と指導教員のマッチング

2011年春に北海道大学に赴任し、まったくの偶然ですが私が専門とする14世紀の宮廷政治家イブン・ハルドゥーンを題材にして学部の卒業論文を執筆した院生がいたことに驚かされました。大学院で充実した研究生生活を送るには院生と指導教員のマッチングが非常に重要です。私も本学での思いがけない偶然をさらに「好機」に変えていけるよう全面的に協力する心がまえています。また、北大のイスラーム研究には長い伝統があり、今も専門の先生がたが複数名おられるという恵まれた環境が続いています。アラビア語の一次史料から浮かび上がる歴史の像が徐々に鮮明になっていく感動の瞬間を、ともに積み重ねていきましょう。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

佐藤 健太郎 教授 SATO Kentaro

■研究分野
中東イスラーム史（特に西地中海地域）

吉開 将人 教授 YOSHIKAI Masato

■研究分野
中国近現代史、南中国、民族問題、学術史

梅村 尚樹 准教授 UMEMURA Naoki

■研究分野
宋代社会史、思想史

歴史学講座 西洋史学研究室

西洋史学研究室では、古代ローマ史、中近世ドイツ史、イギリスとフランスを中心とした近現代のヨーロッパ史、アメリカ史をカバーし、それらにおける政治史、経済史、社会史、文化史の研究をしています。また、ジェンダーやナショナリズムや移民といった新たなテーマにも取り組んでいます。

Lab.letters 教員からのメッセージ

長谷川 貴彦 教授
HASEGAWA Takahiko

研究内容

福祉国家の歴史的形成、グローバル・ヒストリーのなかの産業革命、社会史・文化史の方法論的考察。



▲テムズ河の対岸からみた国会議事堂（ロンドン）。



▲中世の面影が残るヨークの町並み（シャンプルス）。

時間と空間のクロスオーバーで 新たな歴史の姿を浮き彫りにする

歴史を学ぶおもしろさとは、時間と空間の二つの軸をもって物事をとらえていくところにあります。一つ一つの点を集積し線につなげて分析することで、新しい歴史の姿が見えてきます。

私の専門は18世紀から19世紀にかけての近代イギリス史です。当時のイギリスは、いわば世界における近代化のトップランナー。産業革命以降、民間から自発的な市民結社が誕生するなど、社会の構造が大きく変化していきました。このような時代の変遷を政治や経済だけでなく文化という側面からとらえ直するのが、新しい「文化史」の方法です。文化史をめぐる研究は始まったばかり。みなさんの手で新境地を開拓することも夢ではない、現在進行形の学問なのです。

知識の集積にとどまらない 深い分析力がアピールポイントに

間口の広い歴史学の中から学生たちが選ぶ研究テーマはさまざまです。19世紀アメリカにおける“男性”のジェンダー史を追う学生もいれば、ポーランド史に取り組む学生もいます。本研究室では、研究対象となる国や時代は違っても互いに論じ合える場を積極的に提供しています。

歴史学での学びは単に教養が深まるだけではありません。物事を客観的に見つめ、秩序立てて分類化し、分析する力を伸ばしてくれます。これはどの職場でも歓迎される力であり、みなさんの大きなアピールポイントとなります。こうした能力をジャーナリズムやマスコミの現場で発揮し、活躍してくれる卒業生が出ることも期待しています。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

長谷川 貴彦 教授 HASEGAWA Takahiko
■研究分野
近現代イギリス史、歴史理論

松嶋 明男 教授 MATSUSHIMA Akio
■研究分野
近現代フランス史

村田 勝幸 教授 MURATA Katsuyuki
■研究分野
アメリカ史、アメリカ研究

山本 文彦 教授 YAMAMOTO Fumihiko
■研究分野
ドイツ中世・近世史

砂田 徹 特任教授 SUNADA Toru
■研究分野
古代ローマ史

安酸 香織 講師 YASUKATA Kaori
■研究分野
近世ヨーロッパ史、アルザス地域史

歴史学講座 考古学研究室

人工遺物・遺構・遺跡研究のトップランナーと、最新の考古科学を駆使する動物・植物考古学、文化財科学・年代測定の専門家により教員が構成される考古学研究室。旧石器時代～近現代、ユーラシア大陸・日本列島～アメリカ大陸という幅広い時期・地域をカバーする充実したスタッフが、大学院生の先端的な研究推進を支援します。

Lab.letters 教員からのメッセージ

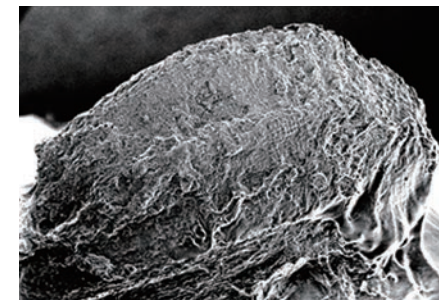
高瀬 克範 教授
TAKASE Katsunori

研究内容

弥生文化・縄縄文化の考古学、千島アイヌ史の考古学的研究、日本列島の植物考古学、皮革資源利用の広域比較、北太平洋の古生態系復元。



▲2005年青森県むつ市江豚沢での調査風景。



▲土器の表面に残るイネ籾痕跡の顕微鏡写真。

モノの「声」を聞く考古学 科学的な観察手法も日進月歩

土器が製作される過程でイネやアワの籾殻が付着すると、野焼きの際に籾殻自体が消滅してもその「圧痕」が土器に残ります。土器の年代がわかれば当時の食生活も明らかになるため、非常に有力な手がかりとして今、注目を集めています。圧痕から対象物のレプリカを作る材料も、油粘土や石膏から現在のシリコンへと科学的な日進月歩が続いています。書き手の視点を含む文献史料とは異なり、モノは人々が生活した痕跡そのもの。誰の視点も介在しない公平な一次資料です。そこから何を聞き出すかは研究者の「語りかけ」次第。自分なりのアプローチを考えながら、教科書的な歴史観ではくれない世界の存在を明らかにしていきます。

新技術の導入をためらわない 将来生かされる「技術移転」

考古学研究者に「これだけをやっていただければいい」はありません。調査分析の方法を日々進化させ、現場にフィードバックしては、さらにいい方法がないかを考える、その繰り返し。そのためには院生であるうちに新技術に挑み続ける姿勢を身につけることが非常に重要です。私も自分の知識や技術を惜しまずかつすみやかに「技術移転」する心構えで、皆さんを待っています。細かい作業も一度経験しておけば、いつかその手法を活用してみたくなったときに二の足を踏まずに取り組めるはず。未経験からくる躊躇がなくなります。北海道大学の適度な少人数制教育は、実に考古学向き。教員と学生の距離を近づけ、細やかな実践指導を可能にしてくれます。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

江田 真毅 教授 EDA Masaki
■研究分野
動物考古学、考古鳥類学、文化財科学

高瀬 克範 教授 TAKASE Katsunori
■研究分野
考古学、植物考古学

小杉 康 特任教授 KOSUGI Yasushi
■研究分野
考古学、物質文化論、民俗誌考古学

國木田 大 准教授 KUNIKITA Dai
■研究分野
考古学、文化財科学

高倉 純 助教 TAKAKURA Jun
■研究分野
考古学、文化財科学

中澤 祐一 助教 NAKAZAWA Yuichi
■研究分野
考古学、人類進化史

文化多様性論講座

文化人類学研究室

この地球上で人類はそれぞれの自然環境に応じて、多様な文化を育んできました。文化人類学とは、自然と結びついた文化の多様性を、研究者が実際に現場に身をおきながら明らかにする分野です。私たちの慣れ親しんだ世界の外に出て、人類の多様な可能性を知り、これからの地球社会を構想する、そんな自由で創造的な場が文化人類学研究室です。

Lab.letters 教員からのメッセージ

山口 未花子 准教授

YAMAGUCHI Mikako

研究内容

文化人類学、生態人類学の分野から「動物」について研究しています。主なフィールドはカナダのユーコン準州。先住民のカスカや内陸トリンギットの人々と動物との関わりについて狩猟や芸術、信仰などに焦点を当てながら調査を続けています。その他に日本の小型沿岸捕鯨、八重山のイノシシ猟なども対象にしています。



▲高校時代から描きためているフィールドノート。調査では「何でも記録する」。右上のラビットファー付きベビーシューズは作り方を教わって自作した。



▲しとめたヘラジカはその場で解体し、気管は木の枝にかけてくる。「風がそこを通ると気管にとどまった霊が息を吹き返し、また肉や皮をつけてヘラジカになって戻ってきてくれる」という言い伝えがあるからだ。トップ画像の手描きイラストはこの話を聞いて描いたもの。

動物との関わりを探り
カナダ先住民の猟師に密着

動物と人との関わりを知りたい私が研究テーマにカナダ先住民の狩猟実践を選んだのは、動物のことを最も熟知している猟師さんにお話を聞くのが一番だと思ったから。狩猟採集民にとって動物は食料や衣類、角・革を使う工芸品にもなれば、歌や文化、宗教観などあらゆる面で深く関わっています。これらの関心事を全て受け止めてくれる、懐の深い文化人類学が“何でも知りたい”私には向いていたのだと思います。同時に寒冷地ほど暮らしの中の動物への依存度が高くなることを考え、日本で北方先住民の研究をするならば、やはり北海道大学が理想の選択肢。フィールド経験が豊富な先生方や充実した図書資料、また現地に近い気候も含めて、これ以上ない研究環境に身を置いています。

人から受け取り、人へ伝える
文化人類学の本質に触れて

カナダでは先住民カスカの古老の狩猟に同行し、自分も見習い猟師として狩猟の技術や動物に関する知識について経験的に教わりました。その方だけが持つ知や技を教わる身としては、しっかり“受け取った”という成果を出したいし、その成果を見てもらいたい。その思いでともに過ごした日々でした。

そうした間柄でしたから、私が大学教員の職に就いたとお知らせしたとき、すごく喜んでくれたんです。自分の教え子である私がさらにまた誰かに伝承する立場になったことが嬉しかったのだと思います。そのときに初めて“人から学ぶ”文化人類学の本質に触れ、カスカの古老から私へ、私から皆さんへと教えを受け継いでいくという自分の役割に自覚がもてたような気がしています。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

小田 博志 教授 ODA Hiroshi

■研究分野
人類学、平和研究、自然―人間関係、生命論、エスノグラフィー論

コーカー・ケイトリン・クリスティーン 准教授 COKER Caitlin Christine

■研究分野
人類学、身体化論、パフォーマンス研究、情動論

山口 未花子 准教授 YAMAGUCHI Mikako

■研究分野
人類学、自然誌、動物論、狩猟研究、北米先住民研究

田中 佑実 助教 TANAKA Yumi

■研究分野
人類学、樹木と人、芸術、北欧先住民研究

文化多様性論講座

芸術学研究室

芸術学研究室には、美学・美術批評史・西洋美術史・現代美術史を専門とする教員がおり、人間の文化的な営みの精華である多様な芸術作品やその美的経験などを考察の対象として、理論的普遍的哲学的な方法と実証的個別的歴史的な方法とを相携えながら、芸術を巡る総合的な知の構築を目指して研究しています。

Lab.letters 教員からのメッセージ

谷古宇 尚 教授

YAKOU Hisashi

研究内容

専門は中世後期のイタリア美術。とくに聖堂や修道院建築など、特定の場所との深いつながりをもった絵画をとりあげています。



▲ナボリの修道院回廊にある18世紀のタイル画。修道院は14世紀に建てられた。



▲1966年から1991年にかけて、モスクワやウラジオストクの若き画家たちが集った「シコタングループ」。シコタン（色丹）島やクナシル（国後）島の風景を描いた。

その場所でしか得られない
美術の感動を研究の推進力に

さまざまな感動をもたらしてくれる美術の中でも私の研究対象は、13～14世紀のイタリアの宗教画と20世紀後半にロシアで活動した「シコタングループ」の画家たちです。前者は主に現地の教会や修道院の壁画に見られ、後者はロシア極東の風景を描くなど、どちらも「特定の場所」をよりどころとしている点に解釈の深さ、面白さが潜んでいます。

美術史における作品とは、考古学で発見された土器さながらに重要な一次資料。研究者が現地に行くことで得られる情報や感動は専門研究の推進力となります。この現地主義に加えて、フランス語やイタリア語など対象地域の言語を習得することで研究にさらなる厚みが生れます。

美術を入口に社会の諸要素を知る
全ての答えは作品の中に

心を奪う色彩や形など、「自分の好きな作品」をきっかけに美術の世界に魅せられていくのはごく自然なことです。しかしひとたび、その「好き」を研究対象にするとなれば作品の形式的な側面だけでなく、歴史や宗教、政治、文学など作品の背景を幅広く学ぶ必要があります。例えばキリスト教について宗教画を入口に知識を深めていくことは欧米社会を理解するための近道にもなります。こうした知識を蓄えたうえで自分の仮説を検証し、結論が出たときにもう一度その作品に立ち返ってみる。当時の人々はそれをどう受け止めていたのか、その答えはやはり作品の中にあるのではないのでしょうか。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

浅沼 敬子 教授 ASANUMA Keiko

■研究分野
現代美術史

谷古宇 尚 教授 YAKOU Hisashi

■研究分野
西洋美術史(イタリア美術史)

今村 信隆 准教授 IMAMURA Nobutaka

■研究分野
美学、美術批評史、博物館学

卓 彦伶 特任准教授 CHO Yenling

■研究分野
博物館学

文化多様性論講座 博物館学研究室

博物館学研究室では、今日的なミュージアム・ミッションに対応した新しい価値のあり方や創造について、資料・作品・標本に関する調査研究の方法論に基づきながら、フィールドワークを通して考察して行きます。博物館学的なアプローチの可能性を探りつつ、学芸員養成課程での基礎的な知識のバージョンアップを目指します。

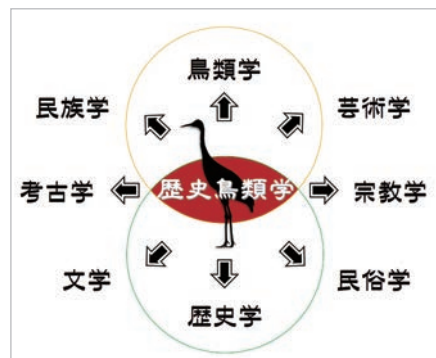
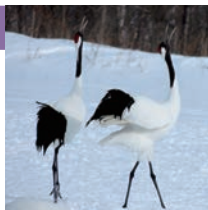
Lab.letters 教員からのメッセージ

久井 貴世 准教授

HISAI Atsuyo

研究内容

主に江戸時代の歴史資料を用いて、野生動物の過去の生態や分布を復元し、人との関わりを解明する研究に取り組んでいます。上野動物園を中心とする過去の動物園の記録から、近代日本の動物園における動物管理の歴史についても研究しています。



▲動物研究という動物学が真っ先に頭に浮かぶが、ツルを媒介に各研究分野をつなげる「歴史鳥類学」という視点を醸成している。



▲縁起が良いとされるツルは私たちの暮らしのなかにもたくさん「生息」している。ツルに関係するグッズを収集することも重要な研究の一つである。

古文書が語りかける ツルと人の共生の未来

江戸時代の鷹狩では「鶴」が重要な獲物であったという古文書の一文を見つけたとき、果たしてその「鶴」は主に北海道に生息するタンチョウなのか、もっと小柄なナベヅルだったのか。その特定を含め、文献に登場する動物そのものに焦点を当てて人との関わりを探る研究は、とても新規性の高い研究分野です。先行研究が少ない分、新たな記述を発掘する喜びがあり、文献調査にもいっそう身が入ります。

近年は道東に限らず、石狩低地帯でもタンチョウが目撃されるようになり、2020年には約100年以上ぶりに北海道長沼町や苫小牧市での繁殖が確認されました。地域の方々と一緒に現代らしい共生のあり方を考える時間もまた、大きなやりがいになっています。

優美にして凶猛な「湿原の神」 観察で鮮明になる文献の真実

アイヌ語でサロルンカムイとも呼ばれるタンチョウは、優美で高貴なイメージがある一方で、アイヌの人々は「凶猛危険」な存在として畏れていたという記録もあります。私が初めて野生のタンチョウに対峙したとき、一瞬身の危険すら感じたその迫力にアイヌの人々がそう描写したくなる心情を、身をもって実感することができました。ツルを自分の眼で観察することで、文献が伝えようとした真実がより鮮明に浮かび上がってくる。貴重な学びとなりました。野生動物の宝庫、北海道には、タンチョウ以外にもヒグマやエゾシカ、オジロワシなどの魅力的な研究対象が潜んでいます。地域社会に根を下ろした野生動物研究の新しい扉を開いていきましょう！

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

佐々木 亨 特任教授 SASAKI Toru

■研究分野
博物館学、文化人類学

久井 貴世 准教授 HISAI Atsuyo

■研究分野
動物に関する歴史と文化、博物館学、歴史鳥類学

表現文化論講座 欧米文学研究室

欧米文学研究室では、ヨーロッパや英語圏の文学を堪能します。英語圏文学・フランス文学・ロシア及びスラブ文学・西洋古典文学などの伝統的研究を縦系に例えると、横系は文献学・文化歴史表象・比較文学・文学理論などの横断的手法。多様な糸で紡がれた文学の絨毯に乗り、想像と創造の世界に旅立ちましょう。

Lab.letters 教員からのメッセージ

瀬名波 栄潤 教授

SENAHA Eijun

研究内容

英文学です。英語だとEnglish。英国だけでなく米国や英語圏の国々の文学作品、またそれ以外の地域の作家が英語で書いた作品も研究対象にしています。これを縦系とするなら、横系はジェンダー・セクシュアリティ、SDGs、映画、文芸翻訳などです。



▲研究室前掲示板。学修・留学・サークル活動から心の健康まで、学生たちに伝えたい情報をアップデートして掲示しています。



▲これまで僕や僕の指導学生が出版した書籍です。献本が届くたびに感無量になります。

作品と心を読み解く通訳者に 新しい自分を発見する文学研究

心に残る文学作品があります。そんな作品を客観的に分析し、惹かれた理由を見つけるのが文学研究です。文学作品と人の心を結ぶ通訳者<Translator>になる学問とも言えます。文学研究を通して作品を細かに見る能力<Interpretation>を養い、それを的確に表現する方法<Expression>を学ぶことは、文学研究ならではの醍醐味です。しかも、文学研究の目的はそれだけにとどまりません。現実と向き合うときも、文学研究で培った能力は発揮されます。そして、究極的にはあなたの新しい自分を発見することにも繋がります。文学研究の可能性は無限です。

人の心に共鳴する自分をつくる 多様性を受け入れる豊かな感性を

僕は文学作品を通してジェンダー・セクシュアリティ研究に関心を持ちました。そのおかげで、現在は「性」についてより広く学べる文理融合型の授業を学部と大学院の1年生向けに提供しています。また、北大公認のLGBTQサークル「虹の集い」の顧問も務めています。こうして僕が出会った学生たちの共通点は、皆優しい心を持っているということです。これは教えたわけではないのですが、文学研究やジェンダー・セクシュアリティ研究を通して、「人の心の痛みを自分のものとする」感性を身につけたからではないかと思います。僕はそのような学生たちを誇りに思っていますし、皆さんも多様な生き方に価値を見出し敬意を払うような人になってほしいと願っています。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

瀬名波 栄潤 教授 SENAHA Eijun

■研究分野
英米文学、英語圏文学、ジェンダー・セクシュアリティ研究

竹内 修一 教授 TAKEUCHI Shuichi

■研究分野
フランス現代文学

竹内 康浩 教授 TAKEUCHI Yasuhiro

■研究分野
アメリカ文学

戸田 聡 教授 TODA Satoshi

■研究分野
古典文献学(特に古代ギリシア語文献学)、古代キリスト教史

小椋 彩 准教授 OGURA Hikaru

■研究分野
ロシア文学、ポーランド文学、比較文学

宮下 弥生 助教 MIYASHITA Yayoi

■研究分野
Shakespeare劇、物語理論、中世英語英文学

表現文化論講座

日本古典文化論研究室

日本古典文化論研究室は、世界に冠たるわが国の文化遺産、すなわち、日本古典文学・日本古典文化に関する学問を行う研究室です。『古事記』・『万葉集』に代表される上代から、近松・西鶴・芭蕉等が人気の近世まで、各自の好みに合致した研究を万全の体制でサポートします。

Lab.letters 教員からのメッセージ

野本 東生 准教授

NOMOTO Tosei

研究内容

中世に成立した説話集について、その表現性を追求すること、あるいはその機構を解明すること。



▲文献調査は、活字文献の用例調査と解釈・注釈が基本。近年は図書館の公開画像や検索エンジンの充実でインターネット情報の活用基盤も整理されてきている。



▲休暇中には、実地調査をかねて名所旧跡や歌枕を訪れることもある。写真は鳥取県の三朝（みささ）山（野本准教授撮影）。

伝言ゲームで現在に至る説話集
書き手と読み手の関係性に着目

13世紀前半に成立した『十訓抄』や『宇治拾遺物語』は、短い話である説話が集まった説話集です。説話は物語とは異なり、比較的短い単体の情報であり、まるで伝言ゲームのように幾人もの手から手へと受け渡されて後世に伝わっていったという大変ユニークな特徴を持っています。ということは、「元は読み手だった書き手が、次の読み手にどういう切り口で情報を伝えようとしているのか」、書き手と読み手双方の関係を推し量りながら作品を解釈していくという面白みが、説話集研究には詰まっています。例えば、『十訓抄』のように一話ごとの教訓と説話集全体としての教訓に二重性を感じさせるものもあり、「なぜそう読ませるのか」書き手の真意を考えながら作品解釈を進めています。

身近な題材が多い説話集研究
情報を多面的に解釈する訓練にも

古典や古文というと、日常とは切り離れた神棚に供えられたようなものに思われがちですが、それを神棚から下ろしてきて普通の日常会話のように取り扱えないか、というのが私の研究の軸になっています。とりわけ説話集は誰が読んでも身近に感じられる題材が多く、まだ手あかのついていないテーマが細部に眠っている可能性を秘めています。また説話集研究そのものが、ひとつの情報に対して多面から物事を考える訓練にもなると思います。

大学で研究を進めるにあたっては、「知りたい」「気になる」などの関心を持つことが一番の原動力になります。皆さんの内に芽生えた関心の種が健やかに成長していけるように、私なりに精一杯手助けしていきたいです。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

金沢 英之 教授 KANAZAWA Hideyuki

■研究分野
上代文学

野本 東生 准教授 NOMOTO Tosei

■研究分野
中世説話文学

南 陽子 准教授 MINAMI Yoko

■研究分野
近世文学

表現文化論講座

中国文化論研究室

中国文化論研究室では、中国の思想、言語、文学などをはじめ、中国および漢字文化圏に関する幅広いテーマを学習・研究することができます。多くの学生は、中国・台湾への短期・長期の留学を体験しています。また本研究室には、中国からの留学生も多く、相互に生の異文化に触れあい、学びあうことができます。

Lab.letters 教員からのメッセージ

田村 容子 教授

TAMURA Yoko

研究内容

1. 中国の近現代演劇
2. 連環画・プロパガンダ芸術
3. 中国における社会主義文化の受容



▲男旦が表紙を飾る雑誌『百美图』（1938/1939）。いずれも新作劇のヒロインだが、右（楊貴妃）は古典風の衣裳、左（ナポレオン夫人ジョセフィーヌ）は西洋風のドレスを着用している。



▲中国文化論研究室有志で第10号まで発行した同人誌「連環画研究」。「連環画」は中国の絵物語。

激動の20世紀中国を映し出す
「男旦」と女優の演劇史

中国の伝統演劇である京劇は20世紀に入ってから近代化の波を受け、「男旦（ナンタン）」（おんながた）によって演じられた女性役を、女優も演じるようになりました。この女優台頭に対して京劇史上屈指の男旦である梅蘭芳（メイランファン）は、独自の演技術を模索して男旦の価値を高め、その一方で海外文化の流入の早かった上海では、女優の向こうを張る衣裳や演出で、新しい現代的な女性像に挑む男旦もあらわれました。こうした役者の生き様はそのまま、中国文化史の映し鏡になっており、時代の潮流を読みながら芸術的欲求を追求する演劇人たちのたくましが、舞台におとらぬ輝きを放っています。

懐の深い中国文化論研究室
共通言語としてのビジュアル資料

北大の中国文化論研究室は、中国に関する研究ならなんでもできるという懐の深さが魅力です。武田雅哉先生（北海道大学名誉教授）を中心に行った共同研究「乳房の図像と記憶」は、中国文化の乳房史を取り上げたもの。中国から出発し、地域や学問領域の境界を越えて、乳房にまつわる想像を探究しました。学生でいられる時間を、「目標までの最短ルート」を選んで過ごすよりも、自分の好奇心を大切にしてください。

膨大な数の方言や識字率の低かった歴史を持つ中国では、演劇や絵画のようなビジュアル文化は、“共通言語”の役割を果たしてきたといえるでしょう。文字で得た知識だけにとらわれず、“絵”を読み解く面白さを、みなさんと共有していきたいです。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

近藤 浩之 教授 KONDO Hiroyuki

■研究分野
中国古代思想、易学思想史

田村 容子 教授 TAMURA Yoko

■研究分野
中国演劇、中国文学

弐 和順 教授 YUHAZU Kazuyori

■研究分野
中国古代学術思想

表現文化論講座

映像・現代文化論研究室

映像・現代文化論研究室では、日本の近代・現代の文学全般、日本および世界の映画を中心として、広く現代の表象文化（アニメーション映画・マンガ・写真・サブカルチャーを含む）と思想を理論的・具体的に考究します。文学・映像・思想のいずれについても、現在の理論水準を追究し、現代世界に通用する最先端の研究を目指します。

Lab.letters 教員からのメッセージ

押野 武志 教授

OSHINO Takeshi

研究内容

夏目漱石・宮沢賢治・坂口安吾を中心に同時代言説との関連性を踏まえたテキストの美的機能とイデオロギーの分析。探偵小説というジャンルの再編をめぐる史的研究。少年・少女像の変容に関する図像的研究。



▲昭和初期に一世を風靡した少女雑誌『少女の友』。創刊100周年記念「中原淳一 昭和の付録 お宝セット」から貴重な完全復刻版。



▲こちらも完全復刻版の江戸川乱歩著『貼雑（はりまぜ）年譜』。作品資料の間取りや切り抜き記事などをスクラップした希少本。

戦後生まれのサブカルチャー
批評性を持って作品を読み込む

近年、学生に非常に人気が高いサブカルチャーは戦後生まれ。敗戦からの復興とともに父は企業戦士に、母は専業主婦となり、母子の関係性が深まる新たな家族モデルが確立していきます。'70年代には女性や子どもを消費の担い手とする社会構造が出来上がり、今のオタク文化やかわいい文化の源流となる上質なサブカルチャーが隆盛しました。

面白いことに'70年代当時の子どものおこづかいを調べると、物価高を考慮に入れても現代の金額に近いことがわかりました。作品が生まれた時代背景や媒体特性を調べることで、作品の特質をさらに深く掘り下げて批評性をもって読むことが可能になります。

傍流が時代の鏡に成長
その魅力は国境を越えて

現在の指導学生が選んだテーマは、芥川龍之介や坂口安吾、つげ義春、野田秀樹、綾辻行人、西尾維新など作家やジャンルも十人十色。なかにウェブ小説、美少女ゲーム、BL・百合作品を研究している学生もいます。かつて傍流とされたサブカルチャーも今では時代を映す鏡となり、若者への影響力もはかりしれないジャンルへと成長しました。その昔、世界が浮世絵に見た“不思議の国”日本のエッセンスが現代ではマンガやアニメに凝縮されており、国境を越えて世界で受容されています。私が今後研究を進めたいと思うのは、山口雅也をはじめとする現代の特殊設定ミステリです。不思議な進化をとげた日本のミステリの特徴を検証していきます。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

応 雄 教授 YING Xiong

■ 研究分野
映像表象論

押野 武志 教授 OSHINO Takeshi

■ 研究分野
日本近代文学、表象文化論

水溜 真由美 教授 MIZUTAMARI Mayumi

■ 研究分野
日本近現代思想史、ジェンダー研究

小川 佐和子 准教授 OGAWA Sawako

■ 研究分野
映画史、音楽劇研究

言語科学講座

言語科学研究室

言語科学研究室では、言語の構造と運用に関して一般言語学と個別言語記述の立場から理論的、実証的、応用的な研究を行います。日本語（国語学・日本語学）、英語、フランス語・ロマンス語、ロシア語・スラブ語、朝鮮語、アイヌ語を中心に、関連領域を含む多様な言語研究を高度に展開するための指導体制を整えています。

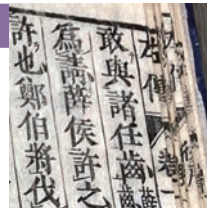
Lab.letters 教員からのメッセージ

蔦 清行 准教授

TSUTA Kiyoyuki

研究内容

過去の日本語と、その日本語の記された資料について研究しています。主な研究対象は、係り結びなど奈良時代の文法と、室町時代に作られた抄物（漢籍についての講義録）などです。



▲江戸時代中頃に出版された『春秋左子伝』。随所にある赤いマークは「不審紙」。現代の付箋にあたり、当時の読者の思考の跡を辿ることができる。



▲15世紀に来日した宣教師たちが布教のために作成した日本語・ポルトガル語辞典の原典。

日本語アップデートの原点、
古典で磨く情報読解力

かつて日本人はどんな言葉を、どんな発音で話していたのでしょうか。私の専門である中世・室町時代では、それらを知る口語体記載の資料として狂言の台本とイエズス会などのキリシタンが残した日本語辞典資料、そして古典中国語の資料を解説した抄物を使っています。何事も次々とアップデートされていく現代で、国を超え、時代を超えて先人たちから繋いできた文献と向き合う行為は、学生時代にこそ経験しておきたい学びの時間です。文字の背後に集積された情報を読み取る力が鍛えられ、現在のフェイク・ニュースを「見る目」も磨かれていくことでしょう。古典という深い森に眠る貴重な日本語研究の資源が、皆さんに掘り起こされるのを待っています。

コピーできない紙資料と
研究仲間を探索の友に

現在は古典資料のデジタル化が進み、北海道にいながらにして必要とする資料の入手が容易になりました。その一方で年々希少性が増す紙資料でなければ得られない情報が多いところも、抄物研究のマニャックな面白さです。墨文字で記された古典資料の基本的な取り扱い方なども、実感を持って習得できるように伝えていきたいと考えています。北海道大学は中国文学研究や日本と中国の関連性に着目した文献研究も進んでおり、抄物研究の情報を気軽に交換しあえる環境が整っています。一度途絶えてしまったらそう簡単に復活できない類の研究は、分野を問わず仲間の存在が心強いもの。紙資料と仲間たちが古典の森を探索する旅の友になってくれます。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

李 連珠 教授 LEE Yeonju

■ 研究分野
韓国語学、言語学、日本語学、音声学、音韻論、日韓語対照研究

加藤 重広 教授 KATO Shigehiro

■ 研究分野
言語学、日本語学、語用論

佐藤 知己 教授 SATO Tomomi

■ 研究分野
言語学、アイヌ語、北方言語

野村 益寛 教授 NOMURA Masuhiro

■ 研究分野
英語学、認知言語学、意味論

藤田 健 教授 FUJITA Takeshi

■ 研究分野
フランス語学、ロマンス語学、統語論

菅井 健太 准教授 SUGAI Kenta

■ 研究分野
ロシア語学、スラブ語学

蔦 清行 准教授 TSUTA Kiyoyuki

■ 研究分野
国語学、文献学、歴史言語学

スラブ・ユーラシア学講座

スラブ・ユーラシア学研究室

スラブ・ユーラシア学研究室は、ロシア・中央ユーラシア・東欧のさまざまな地域を総合的に研究する地域研究を学ぶ研究室です。研究対象地域の言語と、多彩な分野の専門知識・方法を身につけ、他地域との比較も視野に入れながら、先端的な研究を行うことができます。現地調査や国際学会での報告も奨励・支援しています。

Lab.letters 教員からのメッセージ

宇山 智彦 教授

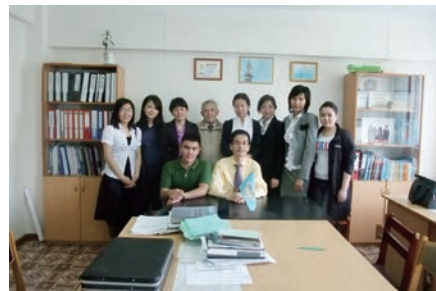
UYAMA Tomohiko

研究内容

1. 比較帝国論から見る帝政・革命期ロシアと中央アジアの関係と、民族知識人の役割
2. 旧ソ連諸国の政治、国際関係、民族・宗教問題と、権威主義・大国主義の国際比較
3. ロシア・ソ連のオリエンタリズムと歴史認識・学知



▲2004年末に行われたウズベキスタン議会選挙の開票風景。宇山教授は国際監視団のメンバーとして現地で見守った。



▲共同指導教員を務めたカザフ大学の学生たちと。「非常に勉学意欲が高い学生が多い。自分の国の枠を超えた視野の広がり期待したいです。」

アジアとヨーロッパを結ぶ
多様な文化の地、中央アジア

中央アジア研究の魅力を一言で表すと「多様な文化」を内包する点にあります。定住民と遊牧民が混在する歴史に共産圏を築いたロシアの文化が加わり、その一方でイスラームを中心とするさまざまな宗教・民族意識も交差する多様な地域、中央アジア。社会主義体制の崩壊や政治経済のグローバル化など世界全体の動きを考えるうえで、ヨーロッパとアジアを結ぶ中央アジアはどういう位置付けになるのか。その答えを知りたくて近現代史を中心に研究を続けてきました。また、世界のさまざまな帝国・植民地の歴史の専門家たちと共に、比較帝国史・比較植民地史の研究に取り組むほか、大国主義研究の観点からロシアのウクライナ侵略についても論評しています。

常識を排して他者を理解する
広くて深い地域研究の学び舎

地域研究の根本は「他者を理解する」こと。研究者は自分の常識にとらわれず、中央アジアという地域で起きたこと・起こっていることを虚心坦懐に観察し理解する姿勢が求められます。指導学生が研究対象とする地域やテーマはさまざまですが、中央アジア研究において政治・経済・文化・歴史を網羅した専門研究ができる環境は国内でも数えるほど。本学にはその高い専門性と刺激を求めて全国および諸外国から意欲ある若手研究者が集まっています。中央アジアは世界の一部。対象地域を深掘りするだけでなく、ロシアや中国、アメリカ、日本など国際社会との結びつきにも目を向けてほしいと両面からの指導を行っています。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

岩下 明裕 教授 IWASHITA Akihiro

■研究分野
ロシア・CIS外交、境界研究

宇山 智彦 教授 UYAMA Tomohiko

■研究分野
中央アジア近代史・現代政治、比較帝国史

ウルフ・デイビッド 教授 WOLFF David

■研究分野
ロシア史、冷戦史

仙石 学 教授 SENGOKU Manabu

■研究分野
中東欧比較政治、政治経済学、福祉政治

長縄 宣博 教授 NAGANAWA Norihiro

■研究分野
旧ソ連地域のイスラーム、ロシア近現代史

野町 素己 教授 NOMACHI Motoki

■研究分野
言語学、スラブ言語学

服部 倫卓 教授 HATTORI Michitaka

■研究分野
スラブ・ユーラシア経済論

青島 陽子 准教授 AOSHIMA Yoko

■研究分野
中東欧・ロシア近現代、ロシア帝国統治構造

安達 大輔 准教授 ADACHI Daisuke

■研究分野
文学、表象・身体・メディア、ロシアの言語文化

大西 富士夫 准教授 OHNISHI Fujio

■研究分野
北極国際政治

アイヌ・先住民学講座

アイヌ・先住民学研究室

アイヌ・先住民学研究室では、文化資源、生活環境、経済社会開発など、先住民族を取り巻く様々な課題の研究を行います。歴史学・言語学・文化人類学・博物館学・法学・考古学の視点からアイヌ・先住民学を体系的に学ぶための指導体制を整えています。

Lab.letters 教員からのメッセージ

丹菊 逸治 准教授

TANGIKU Itsuji

研究内容

アイヌ語（北海道方言・樺太方言）およびアイヌ語文学、特にアイヌ口承文学（口承文芸）研究。および、サハリン島で長年アイヌ民族と隣接してきた、ニヴフ民族の言語（ニヴフ語サハリン方言）と口承文学の研究をしています。



▲ニヴフ民族が使う白樺の皮を折って作られた水桶。アイヌやニヴフの刺繍等の模様も叙事詩同様、大枠のルールを守りつつ細部の表現は個人の創作芸術であり、他人の作品のたんなるコピーは許されない。



▲ニヴフ口承文芸の名手だった故タチャーナ・ウリタさん（手前）と、民族楽器カルギを持つ故アントニーナ・シカルイギナさん（後ろ）。2001年チルウングド村マスカにて。

壮大なアイヌ叙事詩に見出す
個人芸術の多様性

アイヌ民族・ニヴフ民族の口承文芸の一つである叙事詩は、かつて仕事後の夕方の集まりなどで朗唱で語り継がれてきた壮大な長編物語。主人公の冒険譚や荒唐無稽な戦いを描いたものとして知られていますが、これを文学作品として丁寧に見ていくと、実際は先人から受け継ぐ物語を共有しながらも話し手独自の演出や語り口が加わった個人芸術であり、落語や講談のような豊かな多様性を持っていることがわかります。

アイヌ叙事詩の歴史・言語学的な研究はこれまでもありましたが、こうした文学研究の視座は北海道大学ならではの新しい試みです。一語一語を読み解きながら語り手が込めたさまざまな思いを発見し、他の文化的事象にも関連性を見出していく研究の広がり大切にしています。

研究の一人歩きを防ぐ
脱植民地化思想

北海道大学アイヌ・先住民研究センターにいる我々がこの先も最重要視したいキーワードは、「脱植民地化」です。マイノリティーであるアイヌ・先住民の歴史や言語を正面からとらえ、マジョリティーとマイノリティーが未来につながる関係を構築するためにも研究者が次代の皆さんに伝えられることをしっかりと手渡していく、ひいてはそれが二度と繰り返してはならない“学問の暴走”の抑止につながるのではないかと考えています。

アイヌ文化の研究は、いまを生きるアイヌ社会とつながりを持つことも非常に重要であり、センターが持つ幾つもの接点を活用できるのは我々の大きな強みです。今後は話者の協力を仰ぎながら、アイヌ語研究者の育成にも力を入れていきたいです。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

加藤 博文 教授 KATO Hirofumi

■研究分野
先住民考古学、先住民文化遺産、シベリア人類学

北原 モコットウナシ 教授 KITAHARA Mokottunas

■研究分野
アイヌ民族の宗教、アイヌ語、口承文芸

山崎 幸治 教授 YAMASAKI Koji

■研究分野
アイヌ物質文化、文化人類学、博物館学

石原 真衣 准教授 ISHIHARA Mai

■研究分野
文化人類学、先住民研究

落合 研一 准教授 OCHIAI Ken-ichi

■研究分野
先住民法学、憲法学

丹菊 逸治 准教授 TANGIKU Itsuji

■研究分野
口承文芸論、アイヌ語、ニヴフ語

蓑島 栄紀 准教授 MINOSHIMA Hideki

■研究分野
アイヌ史、北東アジア民族史、日本古代史

札幌の空気で深呼吸し 映画の解像度を上げていく

人文学専攻 映像・現代文化論研究室 博士後期課程2年

三浦 光彦 *MIURA Mitsuhiro*

父親譲りの映画好きを学びの原動力に
ブレッソン作品の謎を追いかけて続ける三浦さん。
自分のペースでコンテンツと向き合える札幌で
新しい映画論を組み立てようとしています。

素人を起用して物語を撮るブレッソン映画を解きほぐす

父が映画好きで、小さい頃から映画は身近なものでした。中学生くらいから監督で映画を見るようになり、映画の研究ができる大学を探して北大へ。東京はカルチャーのコンテンツ量が多すぎて、スピードも忙しない。その点、北海道なら親元を離れて自分のペースでじっくりと映画と向き合えるところにも惹かれました。

僕が学部から研究している監督は、1950～80年代に作品を発表したフランス人監督のロベール・ブレッソンです。彼はプロの役者を使わずに素人を起用し、芝居がかった演技を徹底的に排除した撮影方法で知られています。かと言って作品はドキュメンタリーではなく、あくまでもフィクション、物語を撮っている。それは一体なぜなのか。ブレッソン独自の演技論や身体論が一体どこから来ているのかを読み解こうとしています。

多彩なアプローチを学び説得力と独自性ある論文を

映像・現代文化論研究室には映像表象論を研究されている応先生の他にも映画史や詩歌・サブカルチャーを扱う先生がおられて、映画という題材一つとっても多彩なアプローチの視座を学ぶことができます。研究室の諸先生に「あなたの説は説得力や独自性がある」と認めてもらえる論文が書けるようになれば、その先の学術雑誌への投稿もハードルが下がるというもの。個性豊かな先生たちに日々鍛えられています。

博士課程進学に関する経済面の心配は、生活費と研究費の両方を支援してくれる北海道大学DX博士人材フェローシップに採用されたことで解消できました。こうした支援制度に加えて学部内にグループ学習室やロッカー付きの博士大学院生専用の自習スペースがある北大は、札幌駅から徒歩圏という立地も魅力。理想的な研究環境が整っていると実感しています。

PROFILE

1998年千葉県生まれ。北海道大学文学部卒業後、大学院に進学。専門はロベール・ブレッソン監督作品研究。カルチャー批評誌「NOBODY」(<https://www.nobodymag.com/>)にバク・チャヌク監督「別れる決心」や小田香監督が札幌で撮影した『Underground』に関する批評も寄稿。



＼ ここをチェック！ ／

入試対策

想定質問を考え、独自性をPR

修士入試の時は映像・現代文化論研究室の先生がたの各専門分野を意識しながら「映画史の先生からは映画史におけるブレッソンの位置づけを聞かれるかもしれない」というように、あらかじめ質問を想定して口述試験に臨みました。博士入試ではより厳密な研究計画を立てると同時に研究の独自性をアピールしました。

研究室には古今東西のアート系映像のDVDが並んでいる。



目標は博士3年目のフランス留学。
それまでに日本でできることは一通りやっておきたいです。

Weekly Schedule 博士後期課程1年前期の場合

「全然だらけちゃう日もあるんですけど」と断りつつ、毎朝8時起床から始まる規則正しい生活を心がけている三浦さん。まるで呼吸をするかのように「夜は映画の時間」と決めている。

MON	10:30～18:00 文献精読や学部授業のTA、読書会。水曜はアルバイト。 18:00～22:00 発表準備・論文執筆 22:00～24:00 映画鑑賞	
WED	映画はサブスクでも見えますが名画のソフト、とりわけ監督別のBOXセットともなると高価なものばかり。DX博士人材フェローシップの支援を使って購入しています。	金曜は英米文学や言語学、芸術学の院生たちとの読書会。英米文学のテキスト1本とそれに合った映画1本を見てきて皆でディスカッションします。
THU		
FRI		
SAT	10:00～14:00 アパレルバックヤードのアルバイト 14:00～18:00 趣味・娯楽 18:00～22:00 語学勉強 22:00～24:00 映画鑑賞	修士までバンドで、今はソロでたまにライブハウスで演奏しています。 英語とフランス語を勉強中。たまに飲み会が入ることも。
SUN		

Annual Research Plan 年間計画 博士後期課程1年の場合

4月	博士後期課程入学、北海道大学DX博士人材フェローシップに採用。	日本学術振興会の特別研究員に応募するために受講した文学院の支援制度「申請書の書き方セミナー」が役に立ちました。
6月	日本映像学会（京都大学）にて発表。コロナ禍以降初の対面発表だった。	
7月	表象文化論学会大会（東京都立大学）に参加。	
8月	所属研究室が発行する雑誌『層：映像と表現』に論文「『偶然と想像』、あるいは、映画の「不確かさ」についてのスケッチ」を投稿。	
9月	日本映像学会発行『映像学』（全国学会誌）に論文「『不可視の語り手』と作家——ロベール・ブレッソン『田舎司祭の日記』（1951）における語りと演技」を投稿。	
11月	表象文化論学会研究発表会（関西大学）にて発表。	
2023年3月	前年の8月と9月に投稿した論文がアクセプトされ、論文誌に掲載。『映像学』に新たな論文を投稿。	

将来はアカデミア勤務を志望。博士1年目で精力的に論文を執筆したのも、2023年夏に予定している資料調査のための渡仏やその先に控えるフランス留学を見越してのこと。未来の自分を動きやすくするために頑張った成果が、上記の年間計画から読み取れる。

本項は2023年5月現在のデータで構成しています。

人間科学専攻

国際的な人間科学研究をさらに高めへ

実績

さまざまな大型研究プロジェクトを牽引した世界レベルの研究実績が揺るがぬ土台に。

実験、実習、フィールドワーク等、多彩な研究手法でアプローチ

主な講義題目

心理学研究室	■心理学研究のフロンティア ■音楽心理学研究 ■感覚・知覚研究 ■認知神経科学の問題と方法 ■環境認知の心理学
行動科学研究室	■現代社会心理学の動向 ■環境社会心理学 ■比較認知科学の最前線 ■行動科学における実験調査分析 ■社会心理学 ■集団力学の理論
社会学研究室	■社会学論文の構成と執筆法の解説 ■計量的分析の基礎と応用 ■社会学の理論と実証 ■東アジアにおける社会構造 ■正義と福祉社会学
地域科学研究室	■環境と地域の社会学的研究 ■人と動物の関係論 ■地理学と地理空間情報 ■農村振興論 ■観光地域論

修士・博士研究テーマ例

心理学研究室	○修士 共感の発達における社会的認知文脈を含んだ動画の妥当性の検討 想起された色名とそのフォーカルカラーの総合的検討によって明らかになった心内の色彩表現とその構造 ●博士 衛生マスクによる顔の部分遮蔽における魅力増幅・減少効果
行動科学研究室	○修士 集団に有益な規範の文化進化・計算論モデルによる検討 The Conditions People Learn to Acquire a Higher Level of General Trust and the Tendency to Cooperate with a Stranger ●博士 How does social ecology shape people's tendency to conceal prosocial behaviors? The role of relational mobility
社会学研究室	○修士 中国民族系大学における民族間相互行為とステレオタイプの関係ーチベット族学生に焦点をあててー 人口減少社会におけるソーシャル・キャピタルの維持と創成ー北海道における地域除雪を事例としてー ●博士 地域子育て支援の施策と課題ー子育ての私事化／社会化をめぐるー
地域科学研究室	○修士 従来の集約農業からの脱却を図る粗放農業の取り組みー北海道美唄市の2つの事例をもとにー 移住者ー住民の交流・支援の広がりとそのメカニズムー宮城県丸森町筆雨地区を事例にー ●博士 自然災害と支援のプロジェクト・エスノグラフィーーフィリピン台風被災地における支援の実践と持続可能なしくみに関する研究ー

他の修士・博士論文の研究テーマはウェブサイトにてご覧いただけます。 <https://www.let.hokudai.ac.jp/general/master-doctor-thesis>



心理学講座

人や動物の認知活動は如何に行われ、脳はどのように働いているのか？当講座では、このような認知心理学の問題をテーマとした教育・研究を行っています。具体的には、感覚・知覚、注意、記憶、学習、発達など、長い歴史を持つ分野における心的過程の解明のみならず、脳科学、音楽、魅力など、比較的新しい学際的な分野における現象やそのメカニズムについての理解を進めたり、産業応用にも取り組んだりしています。全教員が連携を取りながら、専門家・研究者の育成を行っています。



●心理学研究室

行動科学講座

社会心理学・進化心理学・文化心理学・行動経済学・神経科学・比較認知科学など人間・社会科学諸領域で生み出された理論と方法を融合させ、「心と社会のマイクロ・マクロ関係」、すなわち人や動物の心とそれを取り巻く社会との相互影響過程に関する先導的研究を進めています。協力行動の適応的・神経科学的基盤、文化の生成と伝達、社会的意思決定、社会構造と心理の関連といった理論研究から、社会問題の解決や公共的意思決定といった実社会対応型まで、幅広い研究を行っています。



●行動科学研究室

社会学講座

社会がどのような構造をもちどう変化しているかを個人との関係から記述し因果的に説明すること、どのような社会を目指すべきかを規範的に構想すること、これらの基礎となるデータを社会調査によって正確に収集し分析できること、を目指しています。そのため大学院生は、各自の関心を中心としながら、社会学の古典的な理論から最新の仮説まで、質的・量的な社会調査法とともに幅広くそして深く学びます。海外の大学への留学を支援するとともに、必要に応じて専門社会調査士資格を取得できる体制を整えています。



●社会学研究室

地域科学講座

地域科学講座では、現代社会が抱える多様な問題について、人間社会と自然環境の両面から総合的に研究を進めています。地域社会学・人文地理学・社会生態学の三つの分野を基軸として調査を行い、地域社会で起きているさまざまな事象や問題についての理解を深めます。各分野の基礎的理論からフィールドワークの技法、分析法、実社会への応用までを、野外実習を交えながらマン・ツー・マンで指導することで、自分で問題を発見し、自分で調べ、解決策を探るという社会で必要とされる能力の養成を目指しています。



●地域科学研究室

心理学講座

心理学研究室

心理学研究室では、感覚・知覚、注意、記憶、学習、発達、脳科学、音楽、魅力などに関するオリジナルな実証研究を各学生が計画・遂行し、その成果を論文として発表できるような研究者や、その過程で身につけた技能を職場で生かせるような人材を育成するための指導体制を整えています。

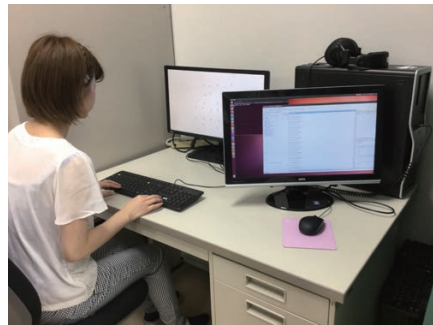
Lab.letters 教員からのメッセージ

河原 純一郎 教授

KAWAHARA Jun-ichiro

研究内容

人間の行動を支える意識・無意識プロセスに関わる注意と記憶。認知機能に影響する要因である、魅力や疲労・ストレスに焦点を当てた研究をしています。広告の研究も始めました。



▲実験目的に応じてコンピュータや専用の装置を使ったり、現場で行動観察をすることもある。

注意と魅力の心理学

人間の行動を測定し、背後のメカニズムを推定する

あなたの注意はどこに向きますか。突然鳴った着信音？好きな人の顔？それとも、いますべきこと（勉強・仕事）に集中できますか。もし前者なら、あなたの意思（注意制御）は弱っているのかもしれません。もし後者なら、好きな人の顔を抑制できていることになります。そのとき、その顔の魅力は下がっているのでしょうか。このように日常にありふれている疑問でさえ、実際に測ってみなければわかりません。私の研究室では、注意、顔、魅力といった認知心理学のキーワードを中心として、人の行動を計測を通して認識の仕組みを理解し、応用するための実験を行っています。

研究は、認知心理学の基礎研究と、広告、食品、衛生材などの企業との共同・受託研究の二本立てでやっています。日常生活の中から研究テーマを見つけやすい点も、この研究分野の面白さのひとつです。

業界を生き抜く自営感覚を鍛え

将来につながる院生時代を応援

学生の皆さん、特に将来、教育・研究職を目指す人には、一教育者・研究者としての「自営感覚」が身に付くような指導をしていきたいと考えています。例えば、研究に労力をかける必要があるのは当然ですが、ただ時間をかければよいというものでもありません。学生さんとの綿密な打ち合わせを通して“次の一手”を考えながら、実りの多い大学院生活となるよう、皆さんをガイドできればと思います。

基本は何事にも積極的に、「やれそう」と思う可能性が少しでもあれば臆せず挑戦してってください。教育・研究業界で職を得るにはそれなりの方法があります。それを知りたい？そんな人は適性があるかもしれません。お問い合わせをお待ちしています。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

安達 真由美 教授 ADACHI Mayumi

■研究分野
音楽心理学(聴取、演奏、感情、発達)

河原 純一郎 教授 KAWAHARA Jun-ichiro

■研究分野
認知行動科学(注意、記憶、魅力、顔、産業応用)

川端 康弘 教授 KAWABATA Yasuhiro

■研究分野
認知心理学(色覚、感性、知識、熟達)

小川 健二 准教授 OGAWA Kenji

■研究分野
認知神経科学(特に運動学習や社会認知)

金子 沙永 准教授 KANEKO Sae

■研究分野
知覚心理学(とくに視覚、錯視)

鶴見 周摩 助教 TSURUMI Shuma

■研究分野
認知・発達心理学(乳児の知覚・認知)

森本 琢 助教 MORIMOTO Taku

■研究分野
認知心理学(クロスモダルな情報処理過程、記憶、心的イメージ)

行動科学講座

行動科学研究室

行動科学研究室は、社会心理学・進化心理学・文化心理学・行動経済学・比較認知科学・神経科学など人間・社会科学諸領域の理論と方法を融合させ、人や動物の心と社会との相互影響過程に関する先導的研究に取り組みます。専門に特化した内容はもちろん、指導教員以外からも深く幅広く学べる教育体制を整えています。

Lab.letters 教員からのメッセージ

瀧本 彩加 准教授

TAKIMOTO Ayaka

研究内容

比較認知科学、協力の進化、向社会行動を支える心理メカニズム、種を超えて結ばれる絆を支える心理的基盤。



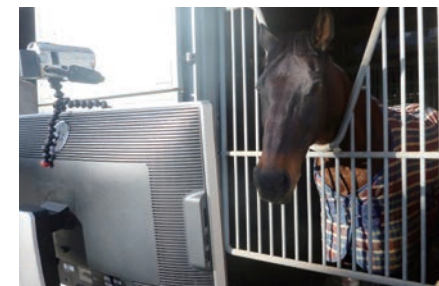
▲長年取り組んできたフサオマキザルの食物分配の実験風景。知性が高く、相手に応じて柔軟に分配し、「お返し」もする。
※トップ画像はチュウベイクモザル（フサオマキザルと同じ新世界ザルの一種）の遊んでいる様子。

化石には残らないところ

種間比較を通してところの進化の道筋を探る

ヒトは他者とかわりあい、絆を築き、ときに助け合いながら暮らしています。ヒト以外の多くの動物でも同じです。では、そうした仲間とかかわり合う中で育まれるところはどのように進化してきたのでしょうか。化石には残らないところ。比較認知科学では、ヒトを含むさまざまな動物のところの比較を通してその類似点・相違点を知り、ところの進化の道筋を解明することを目指しています。

これまで、助け合いの進化を探るため、フサオマキザルなどの霊長類種を対象として、同種個体どうしの報酬分配にかんする実験研究を中心に実施してきました。しかし、絆をつむぐのは同種個体どうしとは限りません。今後は、異種間、特に北海道の地の利を生かしてウマという伴侶動物に注目し、彼らとヒトとの間の絆を形成する心理基盤とその進化についても探っていきます。また、行動の動機づけにも迫るため、行動指標だけでなく生理指標も合わせて測定し、多角的な検討を進めていきます。



▲瀧本先生は馬術部出身。大好きなウマとより良い関係を築きたいという想いから、動物のところの研究に興味を持つようになったという。

野生動物の姿から得た発見・感動を大切に

広い視野を持ち行動する研究者に

比較認知科学の研究手法には、大別して2種類あります。動物のありのままの姿を知るのに有効な観察研究と、条件を統制することで影響する要因を詳細に検討できる実験研究です。当研究室では主に実験研究を行います。皆さんにはぜひできるだけ早い段階で野生動物を観察することをお勧めします。そこで得た発見や感動は必ずや皆さんの研究にさらなる深みと妥当性を与えてくれるはずです。

当研究室では、まず、教科書の精読と実験実習を通して比較認知科学の基礎知識と技術を身につけます。その上で、徐々に近接領域の分野の知識をも学び、自身の研究テーマを多角的に見つめる目を育んでほしいと考えています。そうすることが自身の研究に学際的な面白さを加え、その面白さをより広い世界に発信することにつながるからです。本講座の先生方・大学院生の力をお借りしつつ、学際的・国際的な研究者へと成長していく皆さんを全力で応援します。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

大沼 進 教授 OHNUMA Susumu

■研究分野
環境社会心理学、リスクガバナンス

高橋 伸幸 教授 TAKAHASHI Nobuyuki

■研究分野
社会心理学、実験社会科学

竹澤 正哲 教授 TAKEZAWA Masanori

■研究分野
社会心理学、適応的意思決定、文化進化論

結城 雅樹 教授 YUKI Masaki

■研究分野
社会心理学、文化心理学、社会生態心理学

高橋 泰城 准教授 TAKAHASHI Taiki

■研究分野
行動科学、神経経済学

瀧本 彩加 准教授 TAKIMOTO Ayaka

■研究分野
比較認知科学

中島 晃 助教 NAKAJIMA Akira

■研究分野
応用統計学

社会学講座

社会学研究室

社会学研究室では、現代宗教・アジア地域社会・ウェルビーイングなどに関する研究、社会的排除・福祉や医療・質的調査法に関する研究、社会階層・学歴・家族・地域・労働市場などの社会的な不平等および社会意識に関する研究、社会運動・ナショナリズムに関する研究を行っています。

Lab.letters 教員からのメッセージ

平澤 和司 教授
HIRASAWA Kazushi

研究内容
①高等教育を受ける機会の不平等、②学歴による社会経済的地位の格差、それらを明らかにする③社会調査の方法について研究しています。①②は長らく社会的な不平等の研究テーマとなってきましたが、分かっていないことも多くやりがいのある領域です。

格差の社会学入門
【第2版】
学歴と階級から考える
平沢和司



▲社会的な不平等や社会調査法の編著書。



▲あるウェブ調査の回答画面。

計量的な方法を用いて分析する
社会的な不平等の実態と変化

きょうだい数が多い家庭の出身者は大学進学率が低い傾向にあります。これは洋の東西を問わず観察されますが、なぜか。きょうだいのなかで出生順位が早いほうと遅いほうのどちらが進学しやすいか。さらに大卒者の社会経済的地位は、その増加に伴って高まったのか、それともインフレがおきて低下しているのか。

全国から無作為抽出された方々の回答からなる調査データを分析すると、こうした問いに対する答えが見えてきます。いまのところ対象者の自宅を訪問するか調査票を郵送する方法が主流ですが、これをインターネットによるウェブ調査に置き換える可能性を追求しています。

多様な視点から社会を見据えて
根拠を持って自分なりの意見を

データは多くのことを教えてくれますが、それで充分というわけではありません。格差はどの程度なら許容されるのか、大学は全国にいくつあるのが適正なのか。社会には価値判断を含み答えがひとつに定まらない問いが多くあるからです。

しかし、だからこそ冷静に議論できるよう、誰もがそれぞれの問いに関して、多様な視点から熟考することが求められます。大学はその訓練の場です。一見もっともらしい「改革案」に陥穽はないか、ともに考えてみましょう。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

櫻井 義秀 教授 SAKURAI Yoshihide
■研究分野
宗教・文化社会学、タイ地域研究、東アジア宗教研究、ウェルビーイング研究

平澤 和司 教授 HIRASAWA Kazushi
■研究分野
社会学(特に教育、家族、社会階層)

伍 嘉誠 准教授 NG Ka Shing
■研究分野
ナショナリズム研究、社会運動論、宗教・文化社会学、東アジア研究

樋口 麻里 准教授 HIGUCHI Mari
■研究分野
社会的排除論、福祉・医療社会学、ジェンダー論、家族社会学、国際比較

平松 誠 講師 HIRAMATSU Makoto
■研究分野
社会学(特に都市、地域、社会階層)

清水 香基 助教 SHIMIZU Koki
■研究分野
宗教社会学、主観的ウェルビーイング研究、価値意識の研究

地域科学講座

地域科学研究室

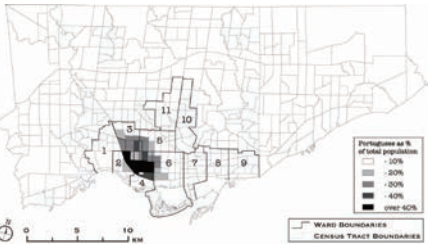
地域科学研究室では、フィールドワークを主体として現代社会が抱える多様な地域問題について取り組みます。地域社会学・人文地理学・社会生態学という分野をベースとして、多面的・学際的な議論を交わすなかで社会や環境への理解と考察を深め、問題の解決を図ります。

Lab.letters 教員からのメッセージ

高橋 昂輝 准教授
TAKAHASHI Koki

研究内容
日本と北アメリカ(特にカナダ)をフィールドに、空間・場所と社会・政治の諸関係について、主に以下の3つの研究に取り組んでいます。1.社会的マイノリティ地区の生成・変容プロセスに関する研究 2.都市空間を巡るコンフリクトとまちづくりに関する研究 3.島嶼性に注目した移住／移動／観光の研究

TORONTO



▲トロント市におけるポルトガル系住民の分布(1981年)に旧トロント市の選挙区割(1978～85年)を重ねた地図。これまで特定の空間への集中居住が、当該選挙区における同胞議員の選出に寄与してきた。しかし、近年の都市再編とともに、ポルトガル系の居住分布は分散化し、こうした都市空間と政治との関係にも変化が見られ始めている。(Takahashi (2022) p.1323, Figure 2より転載)



▲毎年6月、トロント市のポルトガル系移民地区で開催される「ポルトガル・デイ・パレード」。移民一世から三世・四世まで、世代を超えて自身のルーツを再確認する機会となっている。この時空間のもと、エスニシティが強く表れ出た、テンポラルな場所が生成される。(撮影 高橋昂輝准教授, 2014年)

移動と社会関係から
まちの輪郭を浮き彫りに

人々の移動と社会関係は、まちの営みを紡ぎ出す重要な構成要素です。私はこれまで、特に国内外における移民・移住者のコミュニティと彼・彼女らを取り巻く社会関係に注目してきました。例えば、カナダや日本で暮らす移民・移住者は、現地で生まれ育った人々と化学変化を起こし、受入社会をアップデートさせながら、独自のコミュニティをつくり上げていきます。背景の異なる多様な主体が相互作用し、それを活力としながら、まち・地域が発展していくのが理想ですが、実際、その過程では、差別・排除・軋轢などといった残念な現実が認められることもあります。私の研究では、こうした内容を含む社会地理学的な研究課題について、国勢調査などを用いた定量的なデータ分析をとり入れながら、主にフィールドワークに基づく定性的な分析によってアプローチしています。地域のメインストリームからこぼれ落ちる声を掬い上げ、目を向けられてこなかった課題を浮かび上がらせることを試んでいます。これにより、まちのリアルな輪郭を浮き彫りにし、包摂的でより良いまちづくりへの貢献を目指しています。

まちの深部をみる目を育み、
対人面でも豊かに成長

この研究の面白さは、研究室とフィールドを繰り返し行き来し、現地でいろいろな立場の人たちから話を聞いていくうちに、それぞれのまちや地域が持つ「懐」のような一つの深部に突き当たる経験ができることです。そうした経験を積んでいくと、皆さんが見知らぬまちを歩いたときにもまた、観光パンフレットではわからない新たなまちなみが立ち上がってきます。インタビュー時には、それぞれが異なる立場や考えを持つ人たちと同時に接する機会もあります。実践を通じて「多様なものの見方」を習得できる点も、大きな魅力です。本州とは異なる背景や歴史を持ち、社会地理学的に取り組みがいいがあるここ北海道で、皆さんにも、オリジナルな視点でまちを読み解く面白さを共有していきたいです。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

笹岡 正俊 教授 SASAOKA Masatoshi
■研究分野
環境社会学、ポリティカル・エコロジー論、インドネシア地域研究

橋本 雄一 教授 HASHIMOTO Yuichi
■研究分野
都市地理学、地理情報科学(GIS)

宮内 泰介 教授 MIYAUCHI Taisuke
■研究分野
環境社会学、地域社会学、開発社会学

高橋 昂輝 准教授 TAKAHASHI Koki
■研究分野
社会地理学、都市研究、北米地域研究、島嶼研究

林 琢也 准教授 HAYASHI Takuya
■研究分野
農村地理学、経済地理学、観光学、地域づくり論

立澤 史郎 特任助教 TATSUZAWA Shirou
■研究分野
保全生態学、環境教育論、シベリア地域研究



クマ対策を入り口に 人と、地域と手をつなぎたい

人間科学専攻 地域科学研究室 修士課程2年

伊藤 彩乃 *ITO Ayano*

「大学院在学中に経験できることは全てやりきりたい!」と笑顔で語る伊藤さん。専門の地域科学を柱に、実社会での活躍に必要な知識やスキルを学び、課題解決力を磨いています。

宮内先生がいる北大で 獣害対策を「自分事」に

大好きな動物の生態系や人との関わりを知りたくて帯広畜産大学に入り、ヒグマと人の関係について研究していました。すごく楽しかったんですが、「自分はコレを学んだ!」という実感が持てないまま卒業するのはもったいない。次は研究をしっかりやりたいと思い、環境保全に関するご著書を読んで感激した宮内泰介先生がいる北大の文学院に入学しました。

クマを含む獣害対策は行政が動くだけでなく、市民との協力が必要不可欠です。近年は少子化やコミュニティの希薄化といった地域の課題を絡めた獣害対策も進んでおり、私もフィールドである浦幌町で現地の課題を聞き取っています。私自身、北海道に来て初めてクマのことを考えるようになりました。町の方々にとってもクマ対策を改めて「自分事」として考えるきっかけを提供できたらと思っています。

教養深化プログラムや CoSTEP、集中講義も受講

北大に入って実感したことは、「チャレンジする機会がとて多い」ということです。専門の地域科学の他にも、現代の大学院生が求められている実社会で活躍できる総合力をつけるための教養深化プログラムや科学技術コミュニケーションのCoSTEPなど、どれもまさに自分が知りたいこと、身につけたいことばかり。自分がやりたいと思ったことにすぐに踏み出せる北大でもっともっと成長したい。いろんなことを経験しておきたいと思い、ちょっと欲張りすぎかなと思うくらい授業を詰め込んでしまいました。

講義やフィールドワークを通して、今その地域で何が起きているかを「伝える」ことの重要性を学び、就職もできれば広報やメディア、あるいは行政職に関する分野に進めたらと考えています。北大に来たからこそ出会えた人や経験は私の宝物。これからもずっと大切にしていきたいです。

PROFILE

1999年愛知県生まれ。帯広畜産大学畜産学部卒業後、北海道大学大学院文学院修士課程に進学。浦幌町をフィールドにヒグマと人の関係について研究するかたわら、教養深化プログラムも受講。科学技術コミュニケーション教育研究部門CoSTEP本科修了生。HBC（北海道放送）「クマここ」のクマリーダーも務める。



＼ ここをチェック! /

入試対策

地域科学の基礎知識と過去問の勉強会

学部で生態学は学んでいましたが、文学院で新たに学ぼうとしていた地域科学については全くのゼロスタート。宮内先生に聞いていた参考図書を読み込んで基礎的なことを頭に入れておきました。環境問題に関心がある友人たちが過去問題を一緒に解く勉強会を開いて応援してくれたのも、すごく心強かったです。

北大入学のきっかけになった宮内先生の著書。



興味がある授業は迷わず受講。
専門分野が異なる学生と話せるのも楽しいです。

Weekly Schedule 〈修士課程1年:1学期の場合〉

「少しでも『面白そう!』と思った授業は学部でも他の大学院でも受講しています」という言葉通り、毎日、学部生並みに埋まっている充実のスケジュール。

MON	大学院授業「実践環境科学チーム活動実習」	この他にオンデマンド必修科目を3つ、教養深化プログラムの「キャリアマネジメントセミナー」や特別演習「伝える媒の技術」、環境科学院の集中講義「実践環境科学実習I」、Hokkaido Summer Instituteの外来種管理に関する集中講義を受講しました。
TUE	大学院授業「地域科学特殊講義」「地域環境学特別演習」「社会生態学特別演習」	
WED	大学院授業「開発社会学特別演習」、CoSTEP	
THU	大学院授業「地理学特別演習」「地域調査特別演習」、学部授業「地域科学演習」TA	
FRI	大学院授業「経済地理学特別演習」	
SAT	CoSTEP	

Annual Research Plan 年間計画 〈修士課程1年の場合〉

2022年5月	環境科学院の先輩のヒグマ生態調査、文学院の先輩の参与観察調査（田植え@美瑛市）、宮内先生・環境省のゼニガタアザラシ被害聞き取り調査に同行。CoSTEP受講スタート。	
6月	環境科学院の集中講義ワークショップに参加。橋本雄一先生のゼミでニセコ町にエクスカージョン（野外調査）。	
7月	文学部のゼミで中頓別町の聞き取り調査実習。	
8月	札幌市石山地区で熊対策草刈りのお手伝い。Hokkaido Summer Instituteの外来種管理に関する集中講義を受講。浦幌町で約20日間のフィールド調査。	聞き取りさせていただく農家さんのお手伝いもします。
9月	浦幌町フィールド調査。教養深化プログラム集中講義「伝える媒の技術」。	小学校での出張授業もやらせてもらいました。
10月	富山県で一般の方向けクマイベントのお手伝い。野生動物と社会学会に参加。	
11月	旭川のヒグマフォーラムに参加。環境系エンターテイナーWOWキツネザルさんのヒグマドキュメンタリー動画撮影に同行。	
12月	書香の森ギャラリートーク「『深』動物撮影 関係論 ―写真家 高橋忠照と出会った動物たち―」開催スタッフ。	悲しい事故を防ぐためにも適切なクマ対策が必要です。
2023年2月	浦幌町フィールド調査。	
3月	札幌のヒグマフォーラムで研究発表、HBC企画ヒグマイベントのお手伝い。NHK帯広主催ヒグマイベント運営お手伝い・研究発表。CoSTEP修了式。	

「クマに関することなら何でも参加したい」伊藤さんの行動力で実現した年間スケジュール。「たくさんのお会いといろんな意見を吸収して、自分の中の正解を疑うことに気づけた。視野が広がりました」。

本項は2023年5月現在のデータで構成しています。

研究環境 一人ひとりの学びを応援！

在学生のための情報とアーカイブが充実 〈ウェブサイト〉 www.let.hokudai.ac.jp/



研究情報を中心に発信している公式 Facebook もご覧ください。
<https://www.facebook.com/Hokudai.Humanities.HumanSciences/>

公式 Instagram

https://www.instagram.com/hu_bungaku/

文学研究院・文学院・文学部のウェブサイトでは、大学院生や大学院を志す皆さんに役立つ最新情報や、アーカイブを充実させています。セミナー、大学院進学説明会、支援情報などを活用して、研究発表や進路選択に役立ててください。



▲文学研究院・文学院・文学部公式 Twitter は、研究情報、学内行事など学生向け情報を中心に更新、緊急時の情報共有メディアとしても利用します。

文学院紹介動画「#北大#文学院#ほんもの」
<https://youtu.be/yGC6LR5d0m8>



人と情報の交差点 エントランスホール



教員著書のほか北大所蔵の美術作品の企画展示もおこなう「書香の森」

文学院・文学部のエントランスには、「書香の森」と名づけた書棚と展示棚を設置しています。各教員の研究の集大成とも言える著書を表示する他、企画展示や教員が自著を紹介する読書会も行います。興味のある本はすぐ近くの文学部図書室内で借りることができます。展示コーナーは、複数の研究室の大学院生が連携して研究成果を展示するアウトリーチの場として活用されています。

常に机が確保できる院生研究室



研究室ごとに「院生研究室」を設置しており、ひとりが一台の机で勉強できるよう十分な設備を整えています。なかには個人ロッカーや個人の本を置ける開放書棚がある部屋も。文学院内で腰を落ち着けて読書、思考、執筆ができると、院生に好評です。学生用 PC 室も新しくなりました。

きめ細やかな留学支援



文学院・文学部では国際交流に関わる業務、留学生受入、在学留学生の支援などを行っています。また、交換留学に関する情報提供、大学院生・学部生の交換留学の申請手続き支援、協定校への仲介などを行っています。

国際交流担当教員

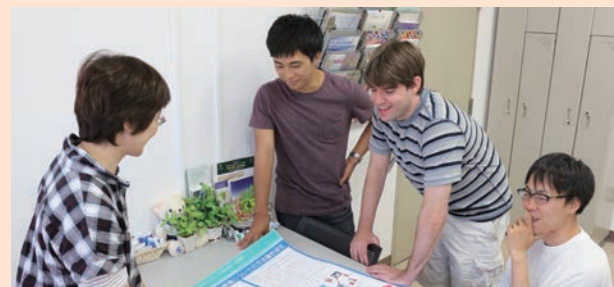
ラフェイ・ミシェル 教授

LA FAY Michelle

■研究分野

日本におけるプロテスタントキリスト教、内村鑑三

若手研究者を応援！研究推進室



大学院生の旅費支援・オンライン開催学会参加費支援・校費支援の窓口、申請書の書き方セミナー等各種セミナーの企画実施のほか、リサーチ・アシスタント (RA) のアウトリーチ支援、若手研究者支援情報の提供など、大学院生やボスドクのみなさんの研究活動をバックアップしています (p.07-p.08)。

関連組織

文学研究院内センター



応用倫理・応用哲学研究教育センター

本センターの目的は、応用倫理、応用哲学、ジェンダー・セクシュアリティ、死生学に関する研究・教育を推進することにあります。2007年4月に「応用倫理研究教育センター」として設置され、応用倫理の研究教育に携わる、国立大学では初の常設機関として活動を開始しました。2008年度よりジェンダー・セクシュアリティに関わる研究教育も活動範囲に加え、2018年度より「応用倫理・応用哲学研究教育センター」へと改称し、新たに「応用哲学」と「死生学」を研究領域に加えることになりました。



北方研究教育センター

北方研究教育センターは、文学研究院が対象とする歴史、文化、言語、芸術、文学、考古、環境など広範な視点から「北方研究」を捉え、研究・教育を進めています。対象地域は、北海道やロシア・スラブ圏をはじめ、北欧、北米、北極にも及び、さまざまな大学や研究機関との共同研究や交流の拠点となっています。また、雑誌『北方人文研究』の発刊、シンポジウムや研究会などの企画・運営を行っています。

学内共同施設



社会科学実験研究センター

社会科学実験研究センター (CERSS) は、先進的な社会科学実験を展開する日本唯一の専門機関であり、国内外の主要研究拠点と連携するハブとしての役割を担っています。心理学・認知科学・脳科学と、経済学、法学、政治学を含む社会科学諸分野との接合を図ると同時に、当該分野における若手人材の育成、研究成果の国内外への発信を行い、実験社会科学の発展に寄与しています。



人間知・脳・AI研究教育センター

人間知・脳・AI研究教育センターは、新しい「人間知」の創成という理念のもと、数千年来の知の伝統を受け継ぐ人文社会科学と、急速に進展しつつある脳科学 (神経科学)・人工知能 (AI) の知が高度なレベルで融合する文理融合型研究・教育を行うセンターです。脳科学 (神経科学) と AI 研究の急速な進展により、旧来人文社会科学が扱ってきた「人間」への問いが新たな仕方です。この挑戦に答え、文理の境界を超えた先端的研究のプラットフォームを作ることを目指します。国内外から最先端の研究者を招聘して行うサマースクール・ウィンタースクールを中心に、プログラムに所属する大学院生は刺激に満ちた共同研究に参画し、国内外の研究室・企業へのインターンシップを行うことができます。

学生生活

札幌の中心部に緑のキャンパス

北海道大学は札幌の中心部という恵まれた立地にあり、緑豊かなキャンパスが広がっています。交通網の要であるJR札幌駅からも徒歩圏にあり、通学にも便利です。大学周辺は学生街として発展しています。大学の関連施設は、140年に及ぶ知の探求の歴史を伝える総合博物館や、市民の憩いの場としても親しまれている植物園、交流の場を創造するコンベンション施設やセミナーハウス、山小屋など。道外には東京オフィスがあり、出張や就活時の拠点として活用されています。留学希望者への情報提供、留学実現に向けての具体的な手続きの支援は、国際連携機構のリクルーティングオフィスが行っています。



大学寮や保育施設も利用可能

北海道大学には男女学部生と男子大学院生用に^{ひいてきりょう}恵迪寮、女子学部生と女子大学院生用には^{そうせいりょう}霜星寮があります。他に札幌市内に公・私設寮が10カ所以上あり、北海道大学生協同組合では下宿・貸間・寮等の紹介も行っています。外国人留学生に対しては、6か所の留学生用宿舎があります。また、学内には札幌市認可保育園「子どもの園」と事業所内保育所「ともに」の2カ所の保育施設があります（定員の空き状況により入所できない場合があります）。

困ったり悩んだりした時には

北海道大学の「学生相談総合センター」では修学、進学、就職などの進路相談に加え、家庭や友人関係などの個人的な問題も相談できます。ハラスメントに関することも相談員の先生が常時対応しています。文学院の建物内にも学生相談室があり、週2回相談を受け付けています。「保健センター」では、健康管理のための定期健康診断や健康診断書・健康診断証明書の作成、学生の健康相談および診療を行っています。

課外活動・ボランティア活動

学生の自主活動として文化系53、体育会系68、その他1の公認学生団体があり、分野を超えた交流の場となっています。例年6月の大学祭をはじめ、学内外での体育大会やスポーツイベントもあります。ボランティア活動に関心がある方は「学生ボランティア活動相談室」の活用をおすすめします。

研究に集中できる経済支援

経済的理由により入学科、授業料の納付が困難な場合、入学科、授業料減免の制度を利用することができます。また、各種奨学金制度[※]や奨励金の機会もあり、研究に集中できるよう経済的に援助する各種支援制度も導入しています。他に大学院生を対象としたティーチング・アシスタント（TA）やティーチング・フェロー（TF）、リサーチ・アシスタント（RA）の制度があり、給与（謝金）を受けながら、教育や研究の補助的作業を通じて教育・研究のスキルを高めていくこともできます。博士後期課程学生向けに研究費と生活費相当額を支給するフェローシップ制度も拡充されています。

※参考:日本学生支援機構奨学金貸与月額（2023年度）

	修士課程	博士後期課程
第一種奨学金	50,000円または88,000円	80,000円または122,000円
第二種奨学金	50,000円、80,000円、100,000円 130,000円、150,000円のいずれか	

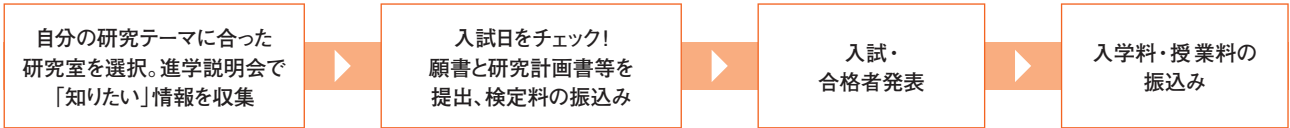
DATA

▶ 文学院「FAQよくある質問」→北大大学院文学院ウェブサイトTOP→[入試情報]→[よくある質問]
入試から生活まで幅広いFAQ集

▶ 北海道大学「学生生活」北海道大学ウェブサイトTOP→[学生生活]
さまざまな学生生活情報を網羅→<https://www.hokudai.ac.jp/gakusei/>

入試から入学まで

- 入試前に志望する研究室の教員や先輩にコンタクトを取り、研究テーマや方法、入試準備について十分な情報を集めておきましょう。オンラインで行う大学院進学説明会では研究環境の他にも研究計画書の書き方や学生生活など幅広い相談を受けています。
- 入学試験は、博士後期課程、修士課程ともに年2回（9月、2月／修士課程の社会人特別入試は2月のみ）実施しています。詳しい募集要項と過去の入試問題などは文学院のウェブサイトに掲載しています。願書付きの募集要項の請求方法は、ウェブサイトTOPページの「資料請求」をご覧ください。
- 文学院は、一般学生とは別に外国人留学生（修士課程のみ）や社会人の入試枠も設けています。社会人入学に配慮した長期履修制度もあり、入学後のそれぞれの研究スタイルを選ぶことができます。



2023年（令和5年）度実施の入試カレンダー

		2023年					2024年	
		6月	7月	8月	9月	11月	12月	1月
オンライン進学説明会		23日				17日		
修士課程	一般・外国人留学生		25日～8月1日出願期間		9日 試験日 22日 合格発表			4～10日出願期間 3日 試験日 20日 合格発表
	社会人		社会人特別入試の前期試験はありません					4～10日出願期間 3日 試験日 20日 合格発表
後期博士課程	一般・社会人		12～19日出願期間		11日 試験日 22日 合格発表			5～11日出願期間 6日 試験日 20日 合格発表

大学院入試情報 北大大学院文学院ウェブサイトTOP→[入試情報]→大学院文学院入試情報

社会に扉を開く

[社会人入学（社会人特別入試）]

“社会に開かれた大学院”を目指して修士課程および博士後期課程の入試に「社会人入学（社会人特別入試）」を実施しています。
詳細は、募集要項をご確認ください。

多忙な社会人に配慮した「長期履修制度」

主に時間的制約の多い社会人の修学に配慮したもので、申請条件を満たせば標準の修業年限より長い期間をかけて計画的な履修を認める制度です。
詳細は、北大大学院文学院ウェブサイトTOP→[文学院]→[長期履修制度]

DATA

- ▶ 検定料:30,000円 入学科:282,000円 授業料:535,800円
（入学科・授業料は改定されることがあります。募集要項で事前にご確認ください）
授業料は前期、後期に分けて払います。また、減免制度、奨学金制度などがあります。
- ▶ 入学状況
https://www.hokudai.ac.jp/introduction/pdf/20221110_gaiyou.pdf#page=41
- ▶ 卒業・修了者数（学位授与数）
https://www.hokudai.ac.jp/introduction/pdf/20221110_gaiyou.pdf#page=42

MEMO

- ▶ 研究生
特定の専門事項について研究を希望し、一定の条件を満たしている方を「研究生」として受け入れています。単位を修得したり学位を取得することはできません。
- ▶ 聴講生・科目等履修生
授業科目の聴講または履修を希望し、一定の条件を満たしている方を「聴講生」、「科目等履修生」として受け入れています。科目等履修生は学期末試験等に合格した場合、教授会の承認を経て、所定の単位を得ることができますが、学位を取得することはできません。

文学院進学希望者向けのまとめ情報は、右のQRコードよりご覧いただけます <https://www.let.hokudai.ac.jp/general/gshhs-portal>



免許・資格

文学院在籍中に中高教員免許状の他、学芸員の資格、専門社会調査士資格、1級考古調査士資格が取得できます。詳しくは入学時に配られる「学生便覧」を参照し教務担当に相談してください。

●教育職員免許状一覧

- (1) 中学校教諭一種免許状 [国語、社会、英語]
- (2) 高等学校教諭一種免許状 [国語、地理歴史、公民、英語]
- (3) 中学校教諭専修免許状 [国語、社会、英語]
- (4) 高等学校教諭専修免許状 [国語、地理歴史、公民、英語]

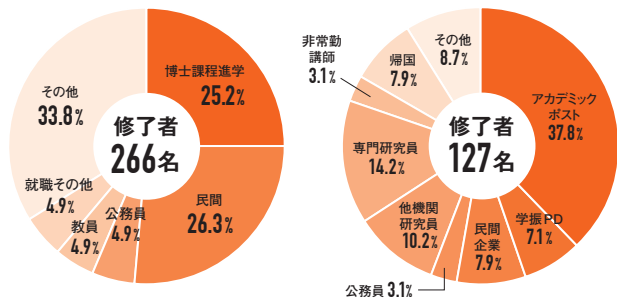
●学芸員 ●専門社会調査士 ●1級考古調査士

進路動向

〈修士課程〉過去3年間の進路

	修了者数	博士課程進学	就職	その他
令和2年度	88人	17人	43人	28人
令和3年度	93人	28人	37人	28人
令和4年度	85人	22人	29人	34人
過去3年間平均	—	25.2%	41.0%	33.8%

※その他の内訳：帰国、大学院等受験準備、文学研究院研究生など。



修士課程 過去3年間の進路

博士後期課程 過去5年間の進路

〈博士後期課程〉過去5年間の進路

※日本学術振興会特別研究員や専門研究員を経て就職したケースも含む（修了後5年以内）。
※単位修得退学者の進路も含む。

●アカデミックポスト

金沢工業大学 基礎教育部 講師、金沢大学 人間社会研究域 准教授、金沢大学 人間社会研究域 講師、九州工業大学 教養教育院 講師、札幌大谷大学 短期大学 講師、札幌学院大学 経営学部 講師、札幌大学 女子短期大学 准教授、就実大学 人文学部 講師、星槎道都大学 社会福祉学部 専任講師、拓殖大学 北海道短期大学 助教、中京大学 心理学部 任期制講師、梅花女子大学 文化表現学部 准教授、広島修道大学 法学部 准教授、広島大学 人間社会科学研究科 助教、別府大学 文学部 講師、北海道教育大学釧路校 講師、北海道大学 アイヌ・先住民研究センター 准教授、北海道大学 アンビシャス特別助教、北海道大学 文学研究院 特任准教授、北海道大学 文学研究院 講師、北海道大学 文学研究院 助教、北海道文教大学 人間科学部 准教授、北海道武蔵女子短期大学 専任講師、武蔵野大学 文学部 助教、安田女子大学 心理学部 講師、横浜国立大学 特任助教、立正大学 心理学部 助教、早稲田大学 国際教養学部 講師

〈中国〉西安音楽学院 講師、江西财经大学 観光管理学部 専任講師、西安建築科技大学、浙江師範大学、浙江传媒学院、中国海洋大学 外国語学院 講師、中国伝媒大学、東北師範大学 外国語学院 講師、南京曉庄学院、寧波財經学院 講師、北京第二外国语学院 日本語学院 講師、北京林業大学 外国語学院 専任講師

〈台湾〉国立台北商業大学 管理学院 助理教授

〈トルコ〉ボゾック大学

●日本学術振興会特別研究員(学振PD)

京都大学、東京外国語大学、東京大学、東京学芸大学、南山大学、北海道大学、明治大学、早稲田大学

●民間企業

英会話スクール(講師)、NHK放送技術研究所、FJコンボジット、河合塾(講師)、コープさっぽろ生活協同組合、SAPジャパン(ITコンサルタント)、スポーツニッポン新聞社、ニチリョク、日本電信電話株式会社(研究開発)、パーソルプロセス&テクノロジー(システムインテグレーター)

●公務員

徳島県立鳥居龍蔵記念博物館、北海道丘珠高等学校、北方民族博物館(学芸員)、国家公務員文化行政(台湾)

●他機関研究員

大阪大学 高等共創研究院 特任研究員、国立情報学研究所、東京外国語大学 総合国際学研究院、東京大学 史料編纂所、東京大学 国際高等研究所、北海道大学 アイヌ・先住民研究センター、北海道大学 スラブ・ユーラシア研究センター、北海道大学 文学研究院共同研究員、理化学研究所

〈中国〉浙江大学 外国語文化与国际交流学院、復旦大学 哲学学院

〈バングラデシュ〉Green Foundation

●文学研究院専門研究員

●その他

サイエンスライター、大学事務職員、神主、自営業、翻訳家

●北海道大学キャリアセンター

学生とのコミュニケーションを大切にしながら就職活動をバックアップ。就職相談や就活指導、就職情報の配信ほか、公務員受験や教員採用試験も応援しています。

修士課程修了者の就職先 過去3年間

官公庁	学術研究、専門・技術サービス業	情報通信業	建設業
国税庁 斜里町役場 仙台市 北海道教育委員会 北海道森林管理局 北海道庁	愛媛県美術館 アクセンチュア あずさ監査法人 石川県立歴史博物館 いであ 大川美術館 帯広百年記念会館 オレンジガーデン 科学技術振興機構 釧路市立美術館 札幌市アイヌ文化交流センター 札幌市芸術文化財団札幌芸術の森 産業技術総合研究所 水土舎 たすきコンサルティング 日本学術振興会 乃村工藝社 野村総合研究所 PwCコンサルティング ビジョン・コンサルティング マクロミル 三重県立熊野古道センター 武者小路実篤記念館	HBA ESRIジャパン NTTデータ NTTデータMSE M-SOLUTIONS グッドフェローズ CLIS KDDI 建通新聞社 ころから ジュビターテレコム 尚文出版 セーファー ソフトウェア・サイエンス TIS ディージェーワールド テクノプロ・IT 東京システム技研 東京法令出版 パクテラ・テクノロジー・ジャパン ビジネス・アソシエイト ファームノート フォレストック	清水建設 大東建託
教育・学習支援業	製造業	サービス業	卸売業・小売業
芦原中学校 大分県中学校 吉祥女子中学高等学校 国際基督教大学高校 埼玉県中学校 札幌市小学校 秀英予備校 進学会 長野県高等学校 日本入試センター 星野学園 北海道高等学校 北海道大学大学文書館 宮城県高等学校 早稲田実業学校	大阪クリップ クボタ コルグ 日産自動車 富士通	JTB 丹青社 マスターピース・グループ 個人事業主(教育業務、飲食宿泊業務)	イオンモール コメリ ニトリ
運輸業・郵便業	金融・保険	不動産	その他
ニチレイロジグループ 北海道丸ロジティクス	内山鑑定事務所 SBI証券 北海道銀行	上海縁友集団 日立ビルシステム	斜里町地域おこし協力隊 真宗興正派西教寺 中頓別町地域おこし協力隊

博士後期課程 修了者の声

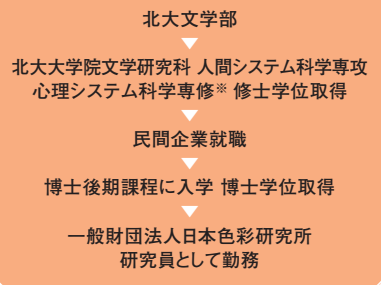
色彩の専門家として鍛えられた実験・分析手法で
現代社会のニーズに即応

高校生のときに色彩検定という試験を知ったことから、学問としての色彩に興味を持ったのが研究のきっかけです。在学中は認知心理学領域で色彩について研究されている川端康弘教授の下で学び、実験を計画することや得られたデータの分析といった研究の面白さに惹かれて大学院進学を決めました。大学院では、物体の色に関する既存の知識が、実際に見た色の記憶の変容にどのような影響を及ぼしているかを研究しました。修士課程修了後に一度民間企業に就職しましたが、認知心理学の色彩分野の専門家になりたいという思いから博士後期課程に進学し、研究を続けま

した。自主性を尊重する環境で、自由な発想を取り入れて研究ができたことはとてもありがたかったですし、その経験が今の職場でも活かされていると思います。

研究所では、企業や自治体などの委託を受け、心理調査・実験から色彩効果の検証や配色提案などを行っています。食品や生活用品、景観など、大学の研究では出会うことのなかった分野と色彩との関係についての知見が得られること、現代社会のニーズを速やかに調査できることが民間の研究所の強みです。また研究所独自の調査の他、北大との共同研究も進めています。

一般財団法人日本色彩研究所 研究員
佐々木 三公子 さん [2017年度修了]



※2019年4月の改組により、文学研究科は文学部に、人間システム科学専攻は人間科学専攻に、心理システム科学専修は心理学研究室になりました。

その他の修了者の声は、右のQRコードよりご覧いただけます。 <https://www.let.hokudai.ac.jp/interview/category/dc-graduate>



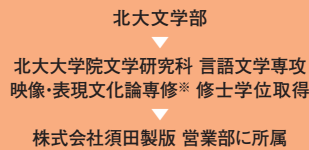
修士課程 修了者の声

さまざまなメディア研究を通じた研鑽が
メディアというものづくりの土台に

私が所属した映像・表現文化論講座(現在は映像・現代文化論研究室)は、映画や小説を始め、マンガ、アニメ、写真、音楽、詩など研究対象の裾野が広いことが特徴です。マンガが研究対象になるという発見に衝撃を受け、学部4年間の研究では物足りず、大学院に進みました。大学院では、マンガがどのようなシステムによって独立したメディアとして存在しているのか、特にマンガにおける時間の操作・編集に関する表現技法の性質や成立過程について研究しました。体系づけられた先行研究があまりなかったため、新たな研究領域を開拓しているようで非常に刺激的でした。

博士後期課程進学も考えましたが、既存メディアの研究だけではなく、メディアが生まれる瞬間に立ち会いたいという思いから、メディア系の制作に携われる業種に就職しました。現在は営業職として、紙媒体だけでなく様々なメディアを通じたものづくりの組み立て役として業務を担っています。大学院で様々なメディアと触れ合った経験は、業務の中でより良い選択肢を見つけるための指針となり、特にマンガ研究の、印刷会社における業務との親和性の高さには日々驚かされています。

株式会社須田製版 営業部
垣花 常武 さん [2018年度修了]

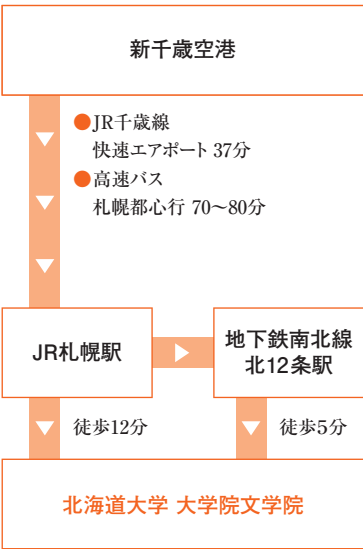


※2019年4月の改組により、文学研究科は文学部に、言語文学専攻は人文科学専攻に統合、映像・表現文化論専修は映像・現代文化論研究室になりました。

その他の修了者の声は、右のQRコードよりご覧いただけます。 <https://www.let.hokudai.ac.jp/interview/category/mc-graduate>



Access



文学院周辺地図



国立大学法人
北海道大学 大学院文学院

〒060-0810 札幌市北区北10条西7丁目

連絡先 文学事務部教務担当

電 話 011-706-3005 / 011-706-3004 (直通)

U R L <https://www.let.hokudai.ac.jp/>

Graduate School of Humanities and Human Sciences,
Hokkaido University
Kita 10, Nishi 7, Kita-ku, Sapporo, 060-0810 Japan

○制作・発行 北海道大学 大学院文学研究院
○編集担当 橋本雄、近藤智彦、阿部嘉昭、宮内泰介 (広報誌専門部会)
飯塚理恵、森岡和子 (研究推進室)

○企画・編集 株式会社スペースタイム
○デザイン 株式会社デクスチャー
○教員紹介記事構成 佐藤優子 (p22、p33、p35 除く)

■本誌に掲載されている情報は2023年6月現在のものです。
■本誌の無断複写 (コピー)・転載は著作権法上での例外を除き、禁じられています。

